

Annals of Uonuma Kikan Byoin

vol.9 2024.4-2025.3



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

< 記載上の留意点 >

- 複数診療科・部門にて行われた研究・業績については、『「論文責任著者・筆頭著書・筆頭演者」の属する診療科・部門』に、代表して掲載しています。
- 当院職員、また、当院職員のうち筆頭演者・著者に、以下のとおり下線を引いています。(UKB リサーチ 2024 頁・主な院内研修会頁・UKB Case Conference 頁・研修医向け勉強会頁を除く)
当院職員で論文責任著者・筆頭著者・筆頭演者 (2重下線) (単名の場合含)
当院職員で論文責任著者・筆頭著者・筆頭演者以外 (下線)
当院職員以外 (下線なし)
- 診療科・部門別に項目別に記載し、項目内を国際→国内の順、日付順に記載しています。
- UKB リサーチ 2024 頁は筆頭演者に下線を引いています。
- 「論文」は、以下の順に記載しています。
著者、題名、雑誌名(巻)号：頁，年
- 「著書・分担執筆など」は、以下の順に記載しています。
著者、題名、書名：頁，出版社，年 など

目次

巻頭言

魚沼基幹病院 病院長 生越 章

診療部

・ 総合診療科	・ ・ ・ ・ 1
・ 循環器内科	・ ・ ・ ・ 2
・ 内分泌・代謝内科	・ ・ ・ ・ 3
・ 腎臓内科（リウマチ科・膠原病科）	・ ・ ・ ・ 4
・ 呼吸器・感染症内科	・ ・ ・ ・ 7
・ 消化器内科	・ ・ ・ ・ 9
・ 脳神経内科	・ ・ ・ ・ 16
・ 精神科	・ ・ ・ ・ 19
・ 小児科	・ ・ ・ ・ 21
・ 消化器外科・一般外科（乳腺外科）	・ ・ ・ ・ 24
・ 整形外科	・ ・ ・ ・ 26
・ 脳神経外科	・ ・ ・ ・ 32
・ 皮膚科	・ ・ ・ ・ 34
・ 泌尿器科	・ ・ ・ ・ 35
・ 耳鼻咽喉科	・ ・ ・ ・ 36
・ 産婦人科	・ ・ ・ ・ 37
・ 麻酔科	・ ・ ・ ・ 38
・ 救急科	・ ・ ・ ・ 39
・ リハビリテーション科	・ ・ ・ ・ 40
・ 歯科口腔外科	・ ・ ・ ・ 41

診療情報管理室	・ ・ ・ ・ 42
---------	------------

感染管理部	・ ・ ・ ・ 43
-------	------------

地域医療部

・ 精神医療支援科	・ ・ ・ ・ 45
-----------	------------

薬剤部	・ ・ ・ ・ 46
-----	------------

医療技術部

・ 放射線技術科	・ ・ ・ ・ 47
・ 臨床検査科	・ ・ ・ ・ 49
・ リハビリテーション技術科	・ ・ ・ ・ 50
・ 臨床工学科	・ ・ ・ ・ 55
・ 栄養管理科	・ ・ ・ ・ 56
・ 診療技術科	・ ・ ・ ・ 57

看護部	・ ・ ・ ・ 58
-----	------------

魚沼基幹病院市民公開講座	・ ・ ・ ・ 59
--------------	------------

UKB リサーチ	・ ・ ・ ・ 60
----------	------------

主な院内研修会	・ ・ ・ ・ 61
---------	------------

UKB Case Conference	・ ・ ・ ・ 65
---------------------	------------

研修医向け勉強会	・ ・ ・ ・ 67
----------	------------

巻 頭 言

10年目を迎えた当院から魚沼基幹病院の業績集 *Annals of Uonuma Kikan Byoin* 2024 を発行できることになりました。当院は、魚沼地域に高度医療・救急医療・専門医療を提供する病院であるとともに、開院以来、医師だけでなく様々な職種の医療人を育成することを、ひとつの目標として掲げており、新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターを併設しています。基幹型臨床研修医は昨年度、そして本年度ともに各8名のフルマッチをとなり、若い力のみなぎる病院として前進しています。2023年度からは当院が看護師の特定行為研修の研修施設としての活動を行っており、順調に専門資格をもつ看護師さんが誕生しております。開院時から当院の組織には、教育研修推進部が設置されており、令和5年度からはその特色をさらに発揮するために、事務部門に教育研修推進係を独立させ、医学生だけでなく、さまざまな職種の学生実習受け入れや、臨床研修・専門研修の受け入れ、さらに当院職員のキャリアアップのための研修にも、より一層力を入れていくことにしました。

内容をご覧になっていただければわかりますように、国内外の多くの学会発表がなされ、学術雑誌に論文が掲載され、さらに科学研究費の研究代表者として活躍しているスタッフが多数おります。

今後もこの研究・教育活動がますます盛んになり、当院にたくさんのスタッフが集うことになり、ますように祈念しております。

2025年6月

魚沼基幹病院
病院長 生越章

論文(短報)

Asano K, Kabasawa K, Takachi R, Sawada N, Tsugane S, Ito Y, Narita I, Nakamura K, Tanaka J.

Association of dietary calcium intake with risk of falls in community-dwelling middle-aged and older adults.

J Nutr Health Aging. 29(3): doi: 10.1016/j.jnha.2024.100465., 2025.

論文(症例報告)

Yamanaka S, Ishikawa K, Kon M, Aoki J, Saeki K, Tanaka J.

Scrub typhus associated with reactive arthritis: A case report and literature review.

IDCases. 39: doi: 10.1016/j.idcr.2024.e02143., 2025.

学会・研究会・講演会

西原麻里子、大橋和政、逸見華子、伊藤竜、川口弦、米岡有一郎、高田俊範.

肺腺癌の転移性松果体腫瘍による非交通性水頭症に対し第三脳室開窓術が ADL の改善に繋がった一例.

第 65 回日本肺癌学会学術集会 (ポスター)

(横浜市, 2024 年 10 月 31 日-11 月 2 日)

研究費(科学研究費)

田中純太: 代表 基盤研究費 (C) 23K09737 2023~2025 年度

地域住民における農作業や除雪作業が心身の健康に与える影響: 10 年間の追跡.

循環器内科

学会・研究会・講演会

渡辺智、佐藤貴雄、猪又孝元、相沢義房.

The influence of the daily salt-intake on the antihypertensive action and atrial natriuretic peptide level in patients with angiotensin receptor neprilysin inhibition.

European Society of Cardiology Congress 2024 (moderated poster presentation) (London, 2024 年 8 月 31 日)

渡辺智、井上幹雄.

脂質異常症の LDL 管理の現状と課題 (続報) .

STOP CVD! Expert Meeting (口演) (新潟市, 2024 年 6 月 14 日)

岡村俊孝.

心不全治療における多職種連携の効果.

第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (ポスター) (神戸市, 2024 年 7 月 13 日)

岡村俊孝.

魚沼基幹病院における心臓リハビリテーションの実際.

十日町学術講演会 (口演) (十日町市, 2024 年 7 月 16 日)

岡村俊孝.

心臓カテーテル検査におけるトラブルシューティング.

第 3 回 Niigata Young cardiovascular consortium (口演) (新潟市, 2024 年 9 月 6 日)

渡辺智.

「スキルアップ研修」に関する指導.

興和社内研修会 (口演) (南魚沼市 (Web), 2024 年 9 月 9 日)

渡辺智、井上幹雄.

脂質異常症の LDL 管理の現状と課題.

LEQVIO web conference (口演) (長岡市, 2024 年 11 月 18 日)

論文(症例報告)

Ohara N, Tani T, Terajima K, Ozawa T, Yoneoka Y, Shimada H, Nakamura Y, Hasegawa G, Nishiyama T.

Primary aldosteronism and hypokalemia-induced rhabdomyolysis in a patient with aldosterone-producing adenoma: A case report and literature review.

Intern Med. doi: 10.2169/internalmedicine.3629-24., 2024.

論文(原著)

Yamamoto S, Yamamoto K, Hirao Y, Yamaguchi K, Nakajima K, Sato M, Kawachi M, Domon M, Goto K, Omori K, Iino N, Shimada H, Aoyagi R, Ei I, Goto S, Goto Y, Gejyo F, Yamamoto T, Narita I.
Mass spectrometry-based proteomic analysis of proteins adsorbed by hexadecyl-immobilized cellulose bead column for the treatment of dialysis-related amyloidosis.
Amyloid. 31(2): 105-115, 2024.

論文(症例報告)

Sakurazawa C, Habuka M, Hoshino Y, Sakamaki Y, Ogawa A, Yamamoto S, Kinoshita H, Narita I.
A case of multiorgan failure due to carbamazepine intoxication successfully treated with multimodal blood purification therapy.
CEN Case Rep. doi: 10.1007/s13730-024-00900-3, 2025.

Waraya Y, Habuka M, Sakurazawa C, Sakamaki Y, Ogawa A, Shimbo J, Nakamichi K, Yamamoto S, Narita I.
A case of a cerebellar form of progressive multifocal leukoencephalopathy in a patient undergoing peritoneal dialysis.
CEN Case Rep. doi: 10.1007/s13730-024-00896-w., 2025.

Habuka M, Sakurazawa C, Sakamaki Y, Ogawa A, Yamamoto S, Narita I.
Systemic AA amyloidosis with amyloid deposition in the peritoneum at the time of initiating peritoneal dialysis.
CEN Case Rep. doi: 10.1007/s13730-025-00981-8, 2025.

Habuka M, Nishikiori M, Oikawa C, Takahashi M, Sakamaki Y, Ogawa A, Miyajima N, Tanabe Y, Honma K, Wakaki K, Yamamoto S, Narita I.
Systemic Amyloid A Amyloidosis Secondary to Xanthogranulomatous Pyelonephritis.
Intern Med. 63(4): 593-599, 2024. (補遺)

学会・研究会・講演会

石黒恵子、酒巻裕一、永野敦嗣、須田剛士、西山勉、飯野則昭。

膀胱破裂の確定診断に難渋したが、血液透析を離脱し得た1例。

第66回新潟透析医学会(口演)

(新潟市, 2024年5月19日)

酒巻裕一.

当院の CKD 診療の取り組み.

CKD 診療 Update Seminar in 南魚沼 (口演)

(南魚沼市 (Web), 2024 年 5 月 30 日)

逸見華子、酒巻裕一、石黒恵子、永野敦嗣、伊藤竜、谷卓、黒澤陽一、小林大介、飯野則昭、成田一衛.

関節炎が先行した抗 ARS 抗体陽性皮膚筋炎の 1 症例.

第 154 回日本内科学会信越地方会 (口演)

(上越市, 2024 年 6 月 1 日)

酒巻裕一、田代啓太、羽深将人、影向一美、小川麻、田辺恭彦、成田一衛.

致死的な非外傷性肝被膜下血腫を合併した ANCA 関連血管炎の 1 例.

第 154 回日本内科学会信越地方会 (口演)

(上越市, 2024 年 6 月 1 日)

石黒恵子、酒巻裕一、永野敦嗣、飯野則昭、山本卓、成田一衛.

LDL アフェレシスを含む集学的治療により奏功した巣状分節性糸球体硬化症の 1 例.

第 69 回日本透析医学会学術集会 (口演)

(横浜市, 2024 年 6 月 7 日-9 日)

清水優、羽深将人、桜沢千尋、酒巻裕一、小川麻、山本卓、成田一衛.

ブルガダ型心電図変化から致死的不整脈を呈したリチウム中毒の 1 例.

第 69 回日本透析医学会学術集会 (口演)

(横浜市, 2024 年 6 月 7 日-9 日)

酒巻裕一.

妻有地域の CKD 診療について.

十日町市中魚沼郡医師会学術講演会 (口演)

(十日町市, 2024 年 9 月 17 日)

逸見華子、酒巻裕一、永野敦嗣、八幡えり香、山口征吾、飯野則昭.

腎機能障害を認めないメトホルミン関連乳酸アシドーシスに対して急性血液浄化療法が奏功した 1 例.

第 155 回日本内科学会信越地方会 (口演)

(松本市, 2024 年 9 月 22 日)

金子久乃、酒巻裕一、西原麻里子、永野敦嗣、大西康史、伊藤由美、飯野則昭、高田俊範、後藤眞.

不明熱で発症し、薬剤熱と薬剤性急性尿細管間質性腎炎と診断した 1 例.

第 155 回日本内科学会信越地方会 (口演)

(松本市, 2024 年 9 月 22 日)

石黒恵子、酒巻裕一、永野敦嗣、飯野則昭、成田一衛.

リチウム製剤と薬剤性の高カルシウム血症により腎性尿崩症を呈した 1 例.

第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 (口演)

(宇都宮市, 2024 年 9 月 28 日-29 日)

飯野則昭.

腹膜透析患者の遠隔患者管理.

第 1 回新潟県腹膜透析セミナー (口演)

(新潟市 (Web), 2024 年 10 月 12 日)

飯野則昭.

腎機能低下に伴い配慮が必要な病態 CKD-MBD の管理も含めて.

JSUS～Jin Skill Up Seminar～（口演）

（新潟市（Web），2024 年 12 月 12 日）

酒巻裕一.

オープニングリマークス.

市民公開セミナーin 魚沼(CKD)（口演）

（南魚沼市，2023 年 11 月 18 日）補遺

受賞

逸見華子：若手奨励賞

腎機能障害を認めないメトホルミン関連乳酸アシドーシスに対して急性血液浄化療法が奏功した 1 例.

（第 154 回日本内科学会信越地方会，2024 年 9 月）

論文(原著)

Keiichi Akasaka, Masako Amano, Tomohiko Nakamura, Tomotaka Nishizawa, Hideaki Yamakawa, Shintaro Sato, Ami Aoki, Kenjiro Shima, Hidekazu Matsushima, Toshinori Takada.

Cytokine profiles associated with disease severity and prognosis of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis. Respiratory Investigation. 62(4): 610-616, 2024.

論文(総説)

Takada T.

Progress in progressive pulmonary fibrosis: biomarkers of systemic sclerosis-associated interstitial lung disease. Rheumatology(Oxford). 63(11): 2907-2908, 2024.

Toshinori Takada, Ami Aoki, Kenjiro Shima, Toshiaki Kikuchi.

Advancements in the treatment of interstitial lung disease in systemic sclerosis with the approval of mycophenolate mofetil. Respiratory Investigation. 62(6): 1242-1246, 2024.

著書・分担執筆など

高田俊範.

じん肺 4) 溶接工肺.
呼吸器内科., 470-474 頁, 科学評論社, 2024

高田俊範.

リンパ脈管筋腫症.
今日の診断指針., 932-933 頁, 医学書院, 2025

学会・研究会・講演会

Toshinori Takada, Hiroshi Moriyama, Ami Aoki, Kenjiro Shima, Toshiaki Kikuchi.

Is Giant Cell Interstitial Pneumonia Synonymous with Hard Metal Lung Disease?
ATS 2024 international conference (ポスターディスカッション) (San Diego, 2024 年 5 月 20 日)

森山寛史、高田俊範、青木亜美、島賢治郎、木村陽介、小屋俊之、菊地利明.

巨細胞性間質性肺炎イコール超硬合金肺と言えるか?
第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (ポスター) (横浜市, 2024 年 4 月 6 日)

高田俊範.

SSc-ILD に対するセルセプト治療～日本呼吸器学会・日本リウマチ学会からの開発要望の経緯～.

CellCept SSc-ILD WEB Seminar (口演)

(東京, 2024 年 9 月 24 日)

高田俊範.

間質性肺炎の地域連携～Cool な判断、HOT な治療.

間質性肺炎地域連携講演会 in 長岡 (口演)

(長岡市, 2025 年 2 月 7 日)

論文(原著)

Zhang H, Targher G, Byrne CD, Kim SU, Wong VW, Valenti L, Glickman M, Ponce J, Mantzoros CS, Crespo J, Gronbaek H, Yang W, Eslam M, Wong RJ, Machado MV, Yu ML, Ghanem OM, Okanoue T, Liu JF, Lee YH, Xu XY, Pan Q, Sui M, Lonardo A, Yilmaz Y, Zhu LY, Moreno C, Miele L, Lupsor-Platon M, Zhao L, LaMasters TL, Gish RG, Zhang H, Nedelcu M, Chan WK, Xia MF, Bril F, Shi JP, Datz C, Romeo S, Sun J, Liu D, Sookoian S, Mao YM, Méndez-Sánchez N, Wang XY, Pyrsopoulos NT, Fan JG, Fouad Y, Sun DQ, Giannini C, Chai J, Xia ZF, Jun DW, Li GJ, Treeprasertsuk S, Li YX, Cheung TT, Zhang F, Goh GB, Furuhashi M, Seto WK, Huang H, Di Sessa A, Li QH, Cholongitas E, Zhang L, Silveira TR, Sebastiani G, Adams LA, Chen W, Qi X, Rankovic I, De Ledingham V, Lv WJ, Hamaguchi M, Kassir R, Müller-Wieland D, Romero-Gomez M, Xu Y, Xu YC, Chen SY, Kermansaravi M, Kuchay MS, Lefere S, Parmar C, Lip GYH, Liu CJ, Åberg F, Lau G, George J, Sarin SK, Zhou JY, Zheng MH: MAFLD ICD-11 coding collaborators.

A global survey on the use of the international classification of diseases codes for metabolic dysfunction-associated fatty liver disease.

Hepatology International. 18(4): 1178-1201, 2024.

Matsumoto K, Kanda T, Wakatsuki J, Kim YJ, Yokouchi R, Sato N, Hasegawa Y, Amemiya K, Hirotsu Y, Hirose S, Imai Y, Takaoka S, Amano H, Asakawa Y, Nagasaka K, Asahina Y, Kojima Y, Toyama S, Mochizuki H, Obi S, Omata M.

Hepatic immune-related adverse event increased the overall survival of patients with malignancies treated with immune checkpoint inhibitors.

Hepatology International. doi: 10.1007/s12072-025-10825-3., 2025.

論文(総説)

Kanda T, Li TC, Takahashi M, Nagashima S, Primadharsini PP, Kunita S, Sasaki-Tanaka R, Inoue J, Tsuchiya A, Nakamoto S, Abe R, Fujiwara K, Yokosuka O, Suzuki R, Ishii K, Yotsuyanagi H, Okamoto H: AMED HAV and HEV Study Group.

Recent advances in hepatitis E virus research and the Japanese clinical practice guidelines for hepatitis E virus infection.

Hepatology Research. 54(8): 1-30, 2024.

Choudhury A, Kulkarni AV, Arora V, Soin AS, Dokmeci AK, Chowdhury A, Koshy A, Duseja A, Kumar A, Mishra AK, Patwa AK, Sood A, Roy A, Shukla A, Chan A, Krag A, Mukund A, Mandot A, Goel A, Butt AS, Sahney A, Shrestha A, Cárdenas A, Di Giorgio A, Arora A, Anand AC, Dhawan A, Jindal A, Saraya A, Srivastava A, Kumar A, Kaewdech A, Pande A, Rastogi A, Valsan A, Goel A, Kumar A, Singal AK, Tanaka A, Coilly A, Singh A, Meena BL, Jagadisan B, Sharma BC, Lal BB, Eapen CE, Yaghi C, Kedarisetty CK, Kim CW, Panackel C, Yu C, Kalal CR, Bihari C, Huang CH, Vasishtha C, Jansen C, Strassburg C, Lin CY, Karvellas CJ, Lesmana CRA, Philips CA, Shawcross D,

Kapoor D, Agrawal D, Payawal DA, Praharaj DL, Jothimani D, Song DS, Kim DJ, Kim DS, Zhongping D, Karim F, Durand F, Shiha GE, D'Amico G, Lau GK, Pati GK, Narro GEC, Lee GH, Adali G, Dhakal GP, Szabo G, Lin HC, Li H, Nair HK, Devarbhavi H, Tevethia H, Ghazinian H, Ilango H, Yu HL, Hasan I, Fernandez J, George J, Behari J, Fung J, Bajaj J, Benjamin J, Lai JC, Jia J, Hu JH, Chen JJ, Hou JL, Yang JM, Chang J, Trebicka J, Kalf JC, Sollano JD, Varghese J, Arab JP, Li J, Reddy KR, Raja K, Panda K, Kajal K, Kumar K, Madan K, Kalista KF, Thanapirom K, Win K^{...}, Kanda T,...APASL-ACLF Research Consortium (AARC) for APASL-ACLF working party
Acute-on-chronic liver failure (ACLF): the 'Kyoto Consensus'-steps from Asia.
Hepatology International. 19(1): 1-69, 2025.

Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Kimura N, Abe H, Yoshida T, Hayashi K, Sakamaki A, Yokoo T, Kamimura H, Tsuchiya A, Kamimura K, Terai S.
Pruritus in Chronic Cholestatic Liver Diseases, Especially in Primary Biliary Cholangitis: A Narrative Review.
Int. J. Mol. Sci. 26(5): 1883, 2025.

神田達郎.

A 型肝炎について.

新潟県医師会報 895: 2-7, 2024.

論文(Editorial)

Takeshi Suda.

Targeting therapy for hepatocellular carcinoma by delivering microRNAs as exosomal cargo.

World Journal of Gastroenterology. 30(17): 2369-2370, 2024.

Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Terai S.

Liver Diseases: From Bench to Bedside.

Int. J. Mol. Sci. 25(10): 5454, 2024.

Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Terai S.

Inflammation of the liver, HCC development and HCC establishment.

Hepatology International. 18(4): 1090-1092, 2024.

Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Yokoo T, Hayashi K, Kamimura H, Tsuchiya A, Terai S.

Cholestasis in hepatitis E virus infection.

World J Hepatol. 17(4), 2025.

Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Terai S.

Combination therapies with immune checkpoint inhibitor-based combination therapies for hepatocellular carcinoma with major vascular invasion.

Hepatology International. doi: 10.1007/s12072-025-10784-9., 2025.

論文 (Letter to the Editor)

Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Tsuchiya A, Terai S.

Hepatitis B virus infection and its treatment in Eastern Ethiopia.

World J Hepatol. 17(1): 99209, 2025.

論文 (症例報告)

Uehara K, Kanda T, Arima S, Totsuka M, Honda M, Masuzaki R, Sasaki-Tanaka R, Matsumoto N, Ogawa M, Kogure H.

Liver biopsy as a useful diagnostic tool for hepatic sarcoidosis: A case report.

Med Int (Lond) 4(4): 38, 2024.

著書・分担執筆など

神田達郎ほか（分担執筆）.

肝臓専門医テキスト 改訂第4版（日本肝臓学会編集），南江堂，2024.

佐々木玲奈、土屋淳紀、神田達郎、寺井崇二.

A型肝炎.

『今日の臨床サポート』（第5版）監修：持田智，エルゼビア・ジャパン，2024.

神田達郎.

E型肝炎知ってます？

1月23日13版14頁「くらし」，産経新聞，2025.

神田達郎.

拡大するE型肝炎 警戒を.

1月27日10頁「健康いきいき」，新潟日報，2025.

学会・研究会・講演会

Kaori Matsumoto, Tatsuo Kanda, Masao Omata.

Hepatic Dysfunction in 879 ICI-treated Patients; Does Referral to a Hepatologist Improve OS?

APASL Oncology 2024 Genomics Meets Immunology: Interdisciplinary Approach for Liver Cancer (ポスター)

(浦安市, 2024年9月24日)

Tatsuo Kanda, Reina Sasaki-Tanaka, Hiroyuki Abe, Naruhiro Kimura, Masaki Mito, Moeno Sugita, Yoshihisa Arai, Satoshi Abe, Akira Sakamaki, Hiroteru Kamimura, Kazunao Hayashi, Takeshi Yokoo, Kenya Kamimura, Atsunori Tsuchiya, Takeshi Suda, Hiroaki Okamoto, Shuji Terai.

Zinc acetate inhibits hepatitis A virus replication in vitro.

The Liver Meeting (TLM) 2024 - AASLD (ポスター)

(San Diego, 2024年11月15日)

R, Sasaki-Tanaka, T. Kanda, H. Abe, L. Yawen, J. An, T. Yoshida, Y. Watanabe, N. Kimura, K. Hayashi, T. Yokoo, A. Sakamaki, H. Kamimura, A. Tsuchiya, H. Okamoto, S. Terai.

Establishment of BALB/cAJcl-nu/nu Mice Xenograft Model and Drug Screening Platform for Acute Hepatitis A.

The Liver Meeting (TLM) 2024 - AASLD (ポスター)

(San Diego, 2024年11月15日)

Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Terai S.

Zinc compounds could suppress hepatitis A virus replication.

APASL 2025 Beijing (ポスター)

(Beijing, 2025年3月26日-30日)

阿部聡司、水戸将貴、杉田萌乃、荒生祥尚、神田達夫、須田剛士.

十二指腸下行脚の消化性潰瘍の検討.

第110回日本消化器病学会総会 (口演)

(徳島市, 2024年5月9日)

神田達郎.

特別講演 I.

HCC Expert Seminar 2024 (司会)

(新潟市 (Web), 2024年5月21日)

神田達郎、佐々木玲奈、岡本宏明.

本邦におけるA型肝炎診療の問題点とその対策: AMED HAV/HEV Study Group.

第60回日本肝臓学会総会 (パネルディスカッション 3-4(口演))

(熊本市, 2024年6月14日)

佐々木玲奈、神田達郎、岡本宏明.

In Vitro および in vivo モデルを用いたA型肝炎ウイルスに対する創薬研究.

第60回日本肝臓学会総会 (パネルディスカッション 6-6(口演))

(熊本市, 2024年6月14日)

神田達郎.

パネルディスカッション 6 ウイルス性肝炎研究 Cutting edge (A-E 型, 小児肝炎 AAV2, 創薬研究).

第 60 回日本肝臓学会総会 (司会)

(熊本市, 2024 年 6 月 14 日)

荒生祥尚、水戸将貴、杉田萌乃、阿部聡司、神田達郎、須田剛士.

魚沼基幹病院における検査結果告知漏れ対策について.

C 型肝炎治療と院内多職種連携を考える会 (発表)

(新潟市, 2024 年 7 月 17 日)

神田達郎.

経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究.

日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)

「経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究」班 (経口肝炎班)

令和 6 年度(2024 年度)第 1 回班会議 (口演)

(新潟市 (Web), 2024 年 8 月 3 日)

田中(佐々木)玲奈、神田達郎.

A 型肝炎の治療法の開発: in vivo における検討を含めて.

日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)

「経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究」班 (経口肝炎班)

令和 6 年度(2024 年度)第 1 回班会議 (口演)

(新潟市 (Web), 2024 年 8 月 3 日)

神田達郎.

経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究.

日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)

「経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究」班 (経口肝炎班)

令和 6 年度(2024 年度)第 1 回班会議 (司会)

(新潟市 (Web), 2024 年 8 月 3 日)

神田達郎.

よくわかる肝臓健康講座.

よくわかる肝臓健康講座 (主催: 魚沼地域振興局健康福祉部) (講演会)

(魚沼市, 2024 年 9 月 11 日)

神田達郎.

最近の経口ウイルス肝炎について.

第 14 回首都圏 Liver Forum (招待口演)

(東京, 2024 年 10 月 5 日)

神田達郎.

ウイルス肝炎治療の最前線.

Hepatology Seminar in Ueda (招待口演)

(上田市, 2024 年 10 月 12 日)

須田剛土.

がん診療の今 part 1 がんゲノム医療とがん診断.

令和 6 年度腫瘍センター主催がん診療に関する勉強会 (講演)

(南魚沼市, 2024 年 10 月 16 日)

佐々木 (田中) 玲奈、神田達郎、寺井崇二.

HAV 感染雄マウス Xenograft モデルを用いた抗 HAV 薬剤開発.

第 28 回日本肝臓学会大会 (ワークショップ 5 肝臓・消化器領域における新興・再興感染症) (口演)

(神戸市, 2024 年 10 月 31 日)

須田剛土.

がん診療の今 part 2 包括的ゲノムプロファイリングと標的治療.

令和 6 年度腫瘍センター主催がん診療に関する勉強会 (講演)

(南魚沼市, 2024 年 11 月 21 日)

神田達郎、佐々木玲奈、寺井崇二.

酢酸亜鉛による A 型肝炎ウイルス増殖抑制効果の検討.

第 45 回日本肝臓学会東部会 (パネルディスカッション 2 急性肝不全・ACLF の現状と課題) (口演)

(仙台市, 2024 年 12 月 6 日)

神田達郎.

特別企画 エキスパートセミナー1.

第 45 回日本肝臓学会東部会 (司会)

(仙台市, 2024 年 12 月 6 日)

神田達郎.

ウイルス肝炎～最近の話題: A 型から E 型まで～ [C 型肝炎治療を含む].

十日町市中魚沼郡医師会学術講演会 (レポート十日町) (招待口演)

(十日町市, 2024 年 12 月 17 日)

神田達郎.

経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究.

日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)

「経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究」班 経口肝炎班

令和 6 年度(2024 年度)第 2 回班会議 (口演)

(新潟市 (Web), 2025 年 3 月 8 日)

田中(佐々木)玲奈、神田達郎、寺井崇二.

A 型肝炎ウイルスに対する候補薬剤の開発: マウスにおける検討を中心に.

日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)

「経口感染によるウイルス性肝炎 (A 型及び E 型) の感染防止、病態解明、治療等に関する研究」班 経口肝炎班

令和 6 年度(2024 年度)第 2 回班会議 (口演)

(新潟市 (Web), 2025 年 3 月 8 日)

神田達郎.

経口感染によるウイルス性肝炎（A 型及び E 型）の感染防止、病態解明、治療等に関する研究.

日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業（肝炎等克服緊急対策研究事業）

「経口感染によるウイルス性肝炎（A 型及び E 型）の感染防止、病態解明、治療等に関する研究」班 経口肝炎班

令和 6 年度(2024 年度)第 2 回班会議（司会）

（新潟市（Web），2025 年 3 月 8 日）

受賞

神田達郎：Best Editor for the year 2023, Hepatology International, Springer

Hepatology International.

（Springer, 2024 年 5 月）

研究費(その他)

神田達郎：（研究開発代表者）

日本医療研究開発機構（AMED） 肝炎等克服実用化研究事業（肝炎等克服緊急対策研究事業）2022～2025 年度

経口感染によるウイルス性肝炎（A 型及び E 型）の感染防止、病態解明、治療等に関する研究. （JP24fk0210132）

論文(原著)

Chauvin SD, Ando S, Holley JA, Sugie A, Zhao FR, Poddar S, Kato R, Miner CA, Nitta Y, Krishnamurthy SR, Saito R, Ning Y, Hatano Y, Kitahara S, Koide S, Stinson WA, Fu J, Surve N, Kumble L, Qian W, Polishchuk O, Andhey PS, Chiang C, Liu G, Colombeau L, Rodriguez R, Manel N, Kakita A, Artyomov MN, Schultz DC, Coates PT, Roberson EDO, Belkaid Y, Greenberg RA, Cherry S, Gack MU, Hardy T, Onodera O, Kato T, Miner JJ.

Inherited C-terminal TREX1 variants disrupt homology-directed repair to cause senescence and DNA damage phenotypes in Drosophila, mice, and humans.

Nat Commun. 15(1): 4696, 2024.

Ishihara T, Koyama A, Atsuta N, Tada M, Toyoda S, Kashiwagi K, Hirokawa S, Hatano Y, Yokoseki A, Nakamura R, Tohnai G, Izumi Y, Kaji R, Morita M, Tamura A, Kano O, Aoki M, Kuwabara S, Kakita A, Sobue G, Onodera O.

SMN2 gene copy number affects the incidence and prognosis of motor neuron diseases in Japan.

BMC Med Genomics. 17(1): 263, 2024.

Hatano Y, Ishihara T, Hirokawa S, Date H, Takahashi Y, Mizusawa H, Onodera O

Redefining the Pathogenic CAG Repeat Units Threshold in CACNA1A for Spinocerebellar Ataxia Type 6.

Neurol Genet. 11(2): e200245, 2025.

Ando S, Saito R, Kitahara S, Uemura M, Hatano Y, Watanabe M, Kato T, Ito Y, Nalini A, Ishihara T, Murayama S, Igarashi H, Kakita A, Onodera O.

"Chocolate Chip Sign" on Susceptibility-Weighted Imaging: A Novel Neuroimaging Biomarker for HTRA1-Related Cerebral Small Vessel Disease.

Neurol Genet. 11(2): e200237, 2025.

学会・研究会・講演会

Ando S, Saito R, Uemura M, Kitahara S, Hatano Y, Watanabe M, Kato T, Ito Y, Nalini A, Ishihara T, Murayama S, Igarashi H, Kakita A, Onodera O.

Venous abnormalities in HTRA1-related cerebral small vessel disease.

4th International CADASIL and VCI Symposium (ポスター)

(京都市, 2024年7月12日)

Hatano Y, Ishihara T, Hirokawa S, Date H, Takahashi Y, Mizusawa H, Onodera O.

Significance of 20 or fewer CAG repeats in CACNA1A in ataxia.

International Congress for Ataxia Research 2024 (ICAR 2024) (ポスター)

(London, 2024年11月12日-15日)

Ando S, Saito R, Uemura M, Kitahara S, Hatano Y, Watanabe M, Kato T, Ito Y, Nalini A, Murayama S, Igarashi H, Kakita A, Onodera O.

Venous abnormality is a useful diagnostic marker for HTRA1-related cerebral small vessel disease.

第 65 回日本神経学会学術大会（ポスター）

（東京，2024 年 5 月 29 日－6 月 1 日）

北原匠、安藤昭一郎、上村昌寛、畠野雄也、野崎洋明、板橋亮、廣澤大輔、野村恵美、大久保浩平、宗兼麻美、田代匠、浅井可奈子、山岡美奈子、種田朝音、相澤仁、本間温、近藤初、岩永聡、室田浩之、小野寺理。

本邦における ABCC6 関連脳小血管病の臨床的・画像的特徴。

第 65 回日本神経学会学術大会（ポスター）

（東京，2024 年 5 月 29 日－6 月 1 日）

濱田壮、畠野雄也、谷卓、Gabdulkhaev Ramil、齋藤理恵、伊藤梢絵、寺島健史。

クリプトコッカス脳髄膜炎の剖検例。

第 154 回信越地方会（口演）

（上越市，2024 年 6 月 1 日）

畠野雄也、会田泉、井上穰、齋藤理恵、柳村文寛、佐藤晶、中島孝。

Duchenne 型筋ジストロフィーと先天性副腎不全を合併した Xp21 隣接遺伝子症候群の 20 歳男性例。

第 251 回日本神経学会関東・甲信越地方会（口演）

（東京，2024 年 12 月 7 日）

荻根沢真也、大津裕、畠野雄也、石原智彦、小野寺理、渡邊慶。

ALS に対する頸椎手術の予後への影響。

令和 6 年度 神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者の QOL 向上に資する研究 班会議（口演）

（東京，2024 年 12 月 20 日－21 日）

小野寺理、畠野雄也、石原智彦、廣川祥子、伊達英俊、高橋祐二、水澤英洋。

CACNA1A の病原性アレルの閾値の検討。

「運動失調症の医療水準，患者 QOL の向上に資する研究班」班会議（口演） （東京，2025 年 1 月 16 日－17 日）

小野寺理、石原智彦、畠野雄也、廣川祥子、伊達英俊、高橋祐二、水澤英洋。

CACNA1A の病原性アレルの閾値の検討。

「脊髄小脳変性症の治療法開発に直結するエビデンス創出研究」班研究報告会（口演）

（Web，2025 年 1 月 27 日）

畠野雄也、石原智彦、廣川祥子、小野寺理。

SCA3 における ATXN3 の病原性アレルの下限閾値の検討。

第 15 回日本小脳学会学術大会・総会（ポスター）

（東京，2025 年 3 月 15 日）

寺島健史。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基本的理解 ～医療ニーズの高い神経難病患者支援の実際。

魚沼圏域難病医療連絡協議会（口演）

（南魚沼市，2024 年 2 月 19 日）補遺

研究費(科学研究費)

畠野雄也：代表 若手研究 23K14771 2023～2025 年度

ALS 関連遺伝子多型の、AI による病原性の重み付けによる、予後別層別化の試み.

畠野雄也：分担 基盤研究(C) 24K10506 2024～2026 年度

AI と剖検組織を用いた ALS の新規原因遺伝子同定.

論文(原著)

Watanabe Y, Otake M, Ono S, Ootake M, Murakami K, Kumagai K, Matsuzawa K, Kasahara H, Hori K, Someya T.
Decreased oral function in Japanese inpatients with schizophrenia.
Neuropsychopharmacol Rep. 44(2): 356-360, 2024.

Onda K, Ichwansyah R, Kawasaki K, Egawa J, Someya T, Hasegawa I.
Spontaneous theory of mind in autism: are anticipatory gaze and reaction time biases consistent?
Front Psychiatry. 15: doi: 10.3389/fpsyt.2024.1189777, 2024.

Watanabe Y, Nishioka M, Morikawa R, Takano-Isozaki S, Igeta H, Mori K, Kato T, Someya T.
Rare nonsynonymous germline and mosaic de novo variants in Japanese patients with schizophrenia.
Psychiatry Clin Neurosci. 79(1): 37-44, 2025.

Hadi AF, Arta RK, Kushima I, Egawa J, Watanabe Y, Ozaki N, Someya T.
Association analysis of rare CNTN5 variants with autism spectrum disorder in a Japanese population.
Neuropsychopharmacol Rep. 45(1): e12527, 2025.

論文(症例報告)

小川真貴、福井直樹、渡部雄一郎、橋尻洸陽、茂木崇治、Zain E、江川純、染矢俊幸.
新潟県内における周産期女性のメンタルヘルスに影響を与える因子についての実態調査及び検討.
新潟市医師会報 639: 2-6, 2024.

渡部雄一郎.
統合失調症の「失われた遺伝率」と「平均余命の差」に挑む.
新潟県医師会報 893: 2-5, 2024.

学会・研究会・講演会

恩田啓伍.
Investigating Spontaneous Mentalizing: Implicit false belief task variables for ASD diagnosis. Variables in the implicit false belief task for ASD Diagnosis.
NEURO2024 (ポスター) (福岡市, 2024 年 7 月 24 日-27 日)

Wahyu MD, Zain E, Fukui N, Watanabe Y, Hashijiri K, Motegi T, Ogawa M, Egawa J, Nishijima K, Someya T.

Relationships between adult attachment styles and maternal-baby infant bonding during the perinatal period, considering depression and anxiety.

10th World Congress Asian Psychiatry (ポスター)

(Bali, 2024 年 12 月 5 日－7 日)

江川純、福井直樹、渡部雄一郎.

精神医学分野が取り組んでいる研究.

第 12 回新潟大学医学系基礎・臨床研究交流会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 8 月 6 日)

受賞

有波浩、鈴木雄太郎、渡部雄一郎、田尻美寿々、常山暢人、染矢俊幸：学会奨励賞

Association between insulin resistance and serum insulin-like growth factor 1 levels in patients with non-remitting major depressive disorder.

(第 34 回日本臨床精神神経薬理学会, 2024 年 5 月)

渡部雄一郎：NPPR Reviewer Award

(日本精神神経薬理学会, 2024 年 5 月)

研究費(科学研究費)

渡部雄一郎：代表 基盤研究費 (C) 24K10703 2024～2026 年度

統合失調症患者・両親におけるデノボ変異の網羅的解析.

研究費(その他)

渡部雄一郎：令和 6 年度公益財団法人先進医薬研究振興財団精神薬療分野一般研究助成 2024 年度

統合失調症の発症に大きな効果をもつデノボ変異の同定.

小児科

論文(原著)

Aizawa T, Makiyama T, Huang H, Imamura T, Fukuyama M, Sonoda K, Kato K, Hisamatsu T, Nakamura Y, Hoshino K, Ozawa J, Suzuki H, Yasuda K, Aoki H, Kurita T, Yoshida Y, Suzuki T, Nakamura Y, Ogawa Y, Yamagami S, Morita H, Yuasa S, Fukuda M, Ono M, Kondo H, Takahashi N, Ohno S, Nakagawa Y, Ono K, Horie M.
SCN5A variant type-dependent risk prediction in Brugada syndrome.
Europace. 27(2): euaf024, 2025.

論文(ガイドライン)

岩本眞理、芳本潤、相庭武司、加藤愛章、久保亨、鈴木博、高月晉一、檜垣高史、廣野恵一、鉾崎竜範、三谷義英.
日本循環器学会/日本小児循環器学会合同ガイドライン 2025 年 JCS/JSPCCS ガイドライン
フォーカスアップデート版 学校心臓検診のガイドライン.
Circ J 2025.

論文(総説)

小澤淳一、鈴木博.
先天性 QT 延長症候群の診療.
日本小児循環器学会雑誌 40(3): 151-162, 2024.

著書・分担執筆など

鈴木博.
携帯型心電図.
児・成育循環器学 改訂第 2 版 編集 日本小児循環器学会, 133-135 頁, 診断と治療社, 2024

学会・研究会・講演会

Hiroshi Suzuki.
Clinical approaches of diagnosing LQTS beyond genetic test.
Asian pacific heart rhythm society. Paediatric & Congenital Heart Disease Webinar 2024 (Webinar)
(Web, 2024 年 4 月 27 日)

鈴木博、小澤淳一、沼野藤人.
小学 4 年生の心拍補正 QT 間隔の検討.
第 60 回日本小児循環器学会学術集会 (口演) (福岡市, 2024 年 7 月 11 日)

Hiroshi Suzuki, Junichi Ozawa, Fujito Numano.

GENDER DIFFERENCE IN PEAK PERIODS OF CORRECTED QT INTERVAL DURING CHILDREN AND ADOLESCENTS.

第 70 回日本不整脈心電学会学術大会（口演）

（金沢市，2024 年 7 月 18 日）

Hiroshi Suzuki.

CHANNELOPATHIES ASSOCIATED WITH SUDDEN CARDIA DEATH IN CHILDREN AND ADOLESCENTS.

第 71 回日本不整脈心電学会学術大会（シンポジウム）

（金沢市，2024 年 7 月 19 日）

鈴木博、小澤淳一、沼野藤人.

新潟県での学校心臓検診のデジタルトランスフォーメーションの取り組みと課題.

第 28 回日本小児心電学会学術集会（口演）

（津市，2024 年 11 月 30 日）

金子知広、伊藤咲希、中島弘貴、橋尻明日実、桑原春洋、田嶋直哉、鈴木博、馬場恵史、小澤淳一.

失神を繰り返し、ペースメーカを植え込んだ先天性中枢性低換気症候群の 1 例.

第 28 回日本小児心電学会学術集会（口演）

（津市，2024 年 11 月 30 日）

原田瑞生、相田麻衣、桑原健輔、桑原春洋、田嶋直哉、鈴木博、関衛順、三浦雅樹.

肥大型心筋症、肝腫大を合併した MED13 遺伝子異常の男児例.

第 239 回日本小児科学会新潟地方会（口演）

（新潟市，2024 年 5 月 11 日）

伊藤咲希、金子知広、中島弘貴、橋尻明日実、桑原春洋、田嶋直哉、鈴木博.

持続する陥没呼吸と吸気性喘鳴を契機に診断した舌根嚢胞の一例.

第 240 回日本小児科学会新潟地方会（口演）

（新潟市，2024 年 12 月 14 日）

桑原春洋.

本当に大丈夫？ Early aggressive nutrition がもたらす負の影響.

第 23 回新生児栄養フォーラム（口演）

（東京，2024 年 6 月 15 日）

田嶋直哉.

食物アレルギーと歩む.

令和 6 年度三条市食物アレルギー対応研修会（講演）

（Web，2024 年 6 月 21 日）

桑原春洋.

今年度診断したマイコプラズマ感染症例における臨床的特徴の検討.

中越小児臨床検討会（口演）

（長岡市，2024 年 10 月 17 日）

金子知広、伊藤咲希、中島弘貴、橋尻明日実、桑原春洋、田嶋直哉、鈴木博、馬場恵史、小澤淳一.

加熱式タバコ誤飲のため急性ニコチン中毒が疑われた 1 例.

中越小児臨床検討会（口演）

（Web, 2025 年 2 月 26 日）

研究費(科学研究費)

鈴木博：代表 基盤研究費（C）22K07840 2022～2025 年度

経年変化と T 波形評価に注目した成長期 QT 延長症候群の新たな診断基準の確立.

消化器外科・一般外科(乳腺外科)

論文(症例報告)

角南栄二、小杉伸一、平野謙一郎、佐藤洋、廣井颯、長谷川剛、伊藤梢絵、

右乳房乳頭乳輪部に発生した Bowen 病の 1 例.

日本臨床外科学会雑誌 85(12): 1651-1655, 2024.

学会・研究会・講演会

角南栄二、小杉伸一、平野謙一郎、佐藤洋、高橋元子、廣井颯、

当科で施行した乳癌センチネルリンパ節生検手術の同定法についての検討.

第 124 回日本外科学会定期学術集会 (示説)

(常滑市, 2024 年 4 月 18 日-20 日)

廣井颯、小杉伸一、佐藤洋、

大腿ヘルニアに対する術式の検討.

第 22 回日本ヘルニア学会学術集会 (口演)

(新潟市, 2024 年 5 月 24 日-25 日)

佐藤洋、小杉伸一、廣井颯、平野謙一郎、角南栄二、

腹腔鏡手術用 ICG 蛍光ガーゼの術中作製法の検討.

日本蛍光ガイド手術研究会 第 7 回学術集会 (口演)

(札幌市, 2024 年 5 月 31 日-6 月 1 日)

角南栄二、

乳房 Paget 病に対し, センチネルリンパ節生検手術を施行した 1 例.

第 32 回日本乳癌学会学術集会 (e-Poster)

(仙台市, 2024 年 7 月 11 日-13 日)

廣井颯、小杉伸一、佐藤洋、

左側大腸穿孔に対する穿孔部閉鎖+人工肛門造設の成績とその意義.

第 79 回日本消化器外科学会総会 (口演)

(下関市, 2024 年 7 月 17 日-19 日)

中村友春、廣井颯、酒井剛、佐藤洋、平野謙一郎、角南栄二、小杉伸一、

Crohn 病を背景とした外傷性小腸穿孔に対して Kono-S 吻合を施行した一例.

第 86 回日本臨床外科学会学術集会 (ポスター)

(宇都宮市, 2024 年 11 月 21 日-23 日)

小林友哉、佐藤洋、中村友春、酒井剛、平野謙一郎、角南栄二、小杉伸一、

男性閉鎖孔ヘルニアの一例.

第 86 回日本臨床外科学会学術集会 (口演)

(宇都宮市, 2024 年 11 月 21 日-23 日)

角南栄二、小杉伸一、平野謙一郎、佐藤洋、高橋元子、酒井剛、中村友春、

当科で経験した外傷性横隔膜ヘルニアの 2 例.

第 61 回日本腹部救急医学会総会（口演）

（名古屋市，2025 年 3 月 20 日－21 日）

研究費(科学研究費)

佐藤洋：代表 若手研究 22K16622 2022～2025 年度

局所陰圧閉鎖療法を用いた手術部位感染予防における治療指標の探索.

小杉伸一：分担 基盤研究費（C）22K08840 2022～2024 年度

食道癌術前化学療法の治療効果予測を目指した NQO1 遺伝子多型の臨床的意義の解明.

小杉伸一：分担 基盤研究費（C）22K08866 2022～2024 年度

放射線画像・遺伝子解析を統合した食道癌術前治療後の癌遺残形式予測モデルの開発.

論文(原著)

Shinya Ibuchi, Norio Imai, Yoji Horigome, Hayato Suzuki and Hiroyuki Kawashima.

The Three-Dimensional Criteria of Developmental Dysplasia of the Hip Using the Functional Pelvic Plane Is More Useful Than That Using the Anterior Pelvic Plane.
J. Clin. Med. 13: doi: 10.3390/jcm13092536., 2024.

Shinya Ibuchi, Norio Imai, Yoji Horigome, Yuki Hirano, Keishi Kimura and Hiroyuki Kawashima.

Long-Term Outcomes and a Radiological Assessment of Hydroxyapatite-Tricalcium Phosphate-Coated Total Hip Arthroplasty (Trilogy/Zimmer): A Long-Term Follow-Up Study.
Medicina. 60(7) doi: 10.3390/medicina60071154., 2024.

Ohashi M, Watanabe K, Hirano T, et al.

Neck and shoulder pain in thoracic adolescent idiopathic scoliosis 10 years after posterior spinal fusion.
Eur Spine J. 33(6): 2522-252, 2024.

Shibuya Y, Katsumi K, Hirano T, et al.

Three-dimensional morphological changes in ossification of the posterior longitudinal ligament of the thoracic spine following posterior decompression and fusion surgery.
J Clin Neurosci. 127: doi: 10.1016/j.jocn.2024.110764., 2024.

Tanaka Y, Hirano T, Ohashi M, et al.

Usefulness and limitations of intraoperative pathological diagnosis using frozen sections for spinal cord tumors.
J Orthop Sci. 29(5): 1161-1167, 2024.

佐藤雅之、大橋正幸、平野徹ほか.

思春期特発性側彎症非手術例の中年期以降における脊柱アライメントと柔軟性の変化.
Journal of Spine Research 15(11): 1321-1327, 2024.

Kusabe Y, Hirano T, kikuchi R, et al.

Characteristics of back pain in patients with adolescent idiopathic scoliosis: Consideration in candidates for corrective surgery.
J Orthop Sci. 29(6): 1364-1369, 2024.

茂泉一麿、井渕慎弥、小柳翔太、花房繁寿、上村一成、目良恒、白旗正幸、平野徹、生越章.

スキースノーボードリゾートにおける大腿骨骨幹部骨折の臨床的特徴の解析.
新潟整形外科研究会会 40(1): 51-54, 2024.

論文(総説)

生越章、川島寛之.

神経線維腫症 1 型ほか.

小児科 66(3): 238-245, 2025.

論文(症例報告)

Ohtsubo S, Ohashi M, Hirano T, et al.

Delayed paraparesis after posterior spinal fusion for congenital scoliosis: a case report.

Spinal Cord Ser Cases. 10(1): 24, 2024.

白旗正幸、谷藤理.

術中 O-arm 使用下で内固定術を施行した足根骨骨折の 2 例.

日本足の外科学会雑誌 45(1): 233-236, 2024.

Sawakami K, Nakamura I, Hirano T, et al.

L5 osteotomy combined with adjuvant romosozumab therapy for L5 osteoporotic vertebral fracture-induced spinaol deformity: illustrative case.

J Nuerosurg Case Lessons. 9(11): CASE24633, 2025.

著書・分担執筆など

平野徹.

どうしました 小 4 の娘 脊柱側彎症と診断.

9 月 25 日朝刊 22 頁, 朝日新聞, 2024.

学会・研究会・講演会

Ogose A, Kawashima H, Ariizumi T, Oike N.

Circumferential parallel ligation method for resection of benign hyper-vascular soft tissue tumors.

22nd International Society of Limb Salvage General Meeting (ポスター)

(Brisbane, 2024 年 10 月 8 日ー11 日)

Ogose A, Kawashima H, Ariizumi T, Oike N, Hatano H, Yamagishi T.

Natural history of sarcoma: Is sarcoma congenital disease?

22nd International Society of Limb Salvage General Meeting (ポスター)

(Brisbane, 2024 年 10 月 8 日ー11 日)

佐藤雅之、大橋正幸、平野徹ほか.

思春期特発性側彎症非手術例の長期経過 非側彎症例との比較.

第 53 回日本脊椎脊髄病学会 (口演)

(横浜市, 2024 年 4 月 18 日 - 20 日)

勝見敬一、溝内龍樹、平野徹ほか.

側方進入椎体間固定術におけるコラーゲン使用人工骨の適切な混合率の検討.

第 53 回日本脊椎脊髄病学会 (口演)

(横浜市, 2024 年 4 月 18 日 - 20 日)

澤上公彦、大橋正幸、平野徹ほか.

骨粗鬆症を伴う脊椎手術に対するテリパラチド補助療法.

第 53 回日本脊椎脊髄病学会 (口演)

(横浜市, 2024 年 4 月 18 日 - 20 日)

牧野達夫、渡辺慶、溝内龍樹、浦川貴朗、大橋正幸、田仕英希、湊圭太郎、佐藤雅之.

Characteristics of gait patterns expected to improve lower extremity motor function after surgery for compressive cervical myelopathy.

第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 (e-ポスター)

(横浜市, 2024 年 4 月 18 日 - 20 日)

目良恒.

膝疾患と骨粗鬆症について.

旭化成社内講演会 (口演)

(南魚沼市, 2024 年 4 月 24 日)

井渕慎弥.

骨粗鬆症治療の基本と大腿骨近位部骨折・魚沼地域連携.

骨粗鬆症連携講演会 in 魚沼 (講演)

(魚沼市, 2024 年 4 月 25 日)

牧野達夫、大橋正幸、田仕英希、湊圭太郎、佐藤雅之、川島寛之.

軸椎病的骨折に対する後頭頸椎固定術後早期にアライメントが変化し嚥下障害を発症した 1 例.

第 122 回東北整形災害外科学会 (口演)

(仙台市, 2024 年 5 月 10 日 - 11 日)

生越章、川島寛之、畠野宏史.

骨軟部肉腫の自然史の解析.

第 30 回新潟病理研究会 (口演)

(新潟市, 2024 年 5 月 18 日)

牧野達夫、渡辺慶、溝内龍樹、浦川貴朗、大橋正幸、田仕英希、湊圭太郎、佐藤雅之、川島寛之.

圧迫性頸髄症患者における重症度別の歩行解析.

第 97 回日本整形外科学会学術総会 (e-ポスター)

(福岡市, 2024 年 5 月 23 日 - 26 日)

平野徹.

思春期においても腰背部痛は QOL 低下と関連する.

第 97 回日本整形外科学会学術総会 (口演)

(福岡市, 2024 年 5 月 23 日 - 26 日)

目良恒.

人工膝関節置換術の術後経過中に多発性骨髄腫が発症した 1 例.

第 33 回新潟関節外科研究会 (口演)

(長岡市, 2024 年 6 月 29 日)

生越章、有泉高志ほか.

神経線維腫症 1 型、2 型の大学病院整形外科における患者診療の実情解析.

第 57 回日本骨軟部腫瘍学術集会 (口演)

(福井市, 2024 年 7 月 11 日 - 12 日)

生越章、川島寛之、有泉高志.

脈管奇形・脈管腫瘍に対する切・離断術の経験.

第 20 回血管腫血管奇形学会学術総会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 7 月 26 日 - 27 日)

牧野達夫.

坐骨神経痛を訴える患者が来たら 家庭医でできる診断治療と外科的介入を考えるタイミング.

「症状から考える疼痛管理～下肢の痛み・しびれ～」講演会 (口演)

(新潟市, 2024 年 8 月 23 日)

目良恒.

当院における前十字靭帯付着部・顆間隆起骨折 (tibial spine fracture; TSF) の治療経験.

日本スポーツ整形外科学会 2024 (ショー トーク)

(東京, 2024 年 9 月 14 日)

佐藤航土、井渕慎弥、小柳翔太、渡邊仁、上村一成、白旗正幸、牧野達夫、目良恒、平野徹、生越章.

魚沼基幹病院での骨折リエゾン取り組み 一動画を用いた患者/家族への啓発一.

第 256 回新潟整形外科研究会 (口頭発表)

(新潟市, 2024 年 9 月 14 日)

井渕慎弥、佐藤航土、小柳翔太、渡邊仁、上村一成、白旗正幸、牧野達夫、目良恒、平野徹、生越章.

大腿骨近位部骨折に対する動画を用いた術前病状説明による医師の働き方改革.

第 256 回新潟整形外科研究会 (発表)

(新潟市, 2024 年 9 月 14 日)

井渕慎弥.

骨粗鬆症治療地域連携.

骨粗鬆症教育入院セミナー (講演)

(十日町市, 2024 年 10 月 8 日)

井渕慎弥、佐藤航土、小柳翔太、渡邊仁、上村一成、白旗正幸、牧野達夫、目良恒、平野徹、生越章.

大腿骨近位部骨折に対する動画を用いた術前病状説明による医師の働き方改革.

第 62 回全国自治体病院学会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 11 月 1 日)

平野徹、和田簡一郎、安倍雄一郎ほか.

本邦における思春期特発性側彎症に対する運動療法の現状.

第 56 回日本側彎症学会 (口演)

(福岡市, 2024 年 11 月 1 日-2 日)

目良恒.

人工膝関節全置換術 (TKA) 術前に骨粗鬆症スクリーニングを行う意義.

十日町市中魚沼郡学術集会 (口演)

(十日町市, 2024 年 11 月 7 日)

目良恒.

当院における前十字靱帯付着部・顆間隆起骨折 (tibial spine fracture; TSF) の治療経験.

第 35 回日本臨床スポーツ医学会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 11 月 16 日-17 日)

目良恒.

中高年女性の前十字靱帯 (ACL) 損傷における治療選択の検討.

第 35 回日本臨床スポーツ医学会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 11 月 16 日-17 日)

茂泉一麿、目良恒.

スキーリゾート地域における、スキー・スノーボードで受傷した大腿骨骨幹部骨折の臨床的特徴.

第 35 回日本臨床スポーツ医学会 (口演)

(新潟市, 2024 年 11 月 17 日)

渡邊仁.

Bertolotti 症候群について.

三木会 (口演)

(新潟市, 2024 年 11 月 21 日)

井渕慎弥.

骨粗鬆症治療の基本と大腿骨近位部骨折・魚沼地域連携.

南魚沼市民講演 (講演)

(南魚沼市, 2024 年 11 月 30 日)

生越章、川島寛之、有泉高志、大池直樹.

皮下組織を主体とするびまん性神経線維種内から発生した悪性末梢神経鞘腫瘍.

第 16 日本レックリングハウゼン病学会学術集会 (口演)

(岡山市, 2025 年 1 月 26 日)

目良恒.

骨代謝異常の背景を考える-見逃しがちな低リン血症の臨床的意義-.

協和キリン株式会社 web セミナー (口演)

(長岡市, 2025 年 3 月 18 日)

井渕慎弥、佐藤航士、小柳翔太、渡邊仁、上村一成、白旗正幸、牧野達夫、目良恒、平野徹、生越章.

大腿骨近位部骨折に対する動画を用いた医療説明による医師の働き方改革.

第 12 回日本脆弱性骨折ネットワーク (ポスター)

(北九州市, 2025 年 3 月 7 日)

研究費(科学研究費)

生越章：代表 基盤研究費（C）21K09197 2021～2024 年度

良悪性中間群骨軟部腫瘍における免疫環境の解析と新規治療法の開発.

目良恒：代表 基盤研究費（C）21K09245 2021～2024 年度

関節内の細胞外小胞体による局所恒常性維持の機序解明.

脳神経外科

論文(原著)

米岡有一郎、黒岩巖志、大石誠、橐田学、鈴木博、池田幸恵、関泰弘、秋山克彦.

COVID-19 禍における小児脳腫瘍患者の終末期在宅緩和医療.

小児の脳神経 2024 49(1): 1-8, 2024.

学会・研究会・講演会

米岡有一郎、高橋陽彦、関泰弘.

小児の下垂体腫大：腫瘍か過形成か？

第 52 回日本小児神経外科学会（ポスター）

（富山市，2024 年 6 月 7 日－8 日）

米岡有一郎.

脳神経外科外来における高プロラクチン血症.

第 115 回新潟県内分泌代謝同好会（口演）

（新潟市，2024 年 6 月 29 日）

米岡有一郎、渋間啓、高橋陽彦、関泰弘.

未破裂前交通動脈瘤の clipping の術前検討.

第 81 回新潟脳卒中研究会（口演）

（新潟市，2024 年 7 月 27 日）

米岡有一郎、岡田正康、大石誠.

下垂体腫瘍による視交叉圧迫の視機能障害の病態解析のモデル化研究.

第 83 回日本脳神経外科学会学術総会（口演）

（横浜市，2024 年 10 月 16 日－18 日）

米岡有一郎、平石哲也、渋間啓、関泰弘、岡田正康、大石誠.

複数回の手術・照射後に再増大した頭蓋底孤立線維性腫瘍のバゾパニブ内服後に生じた髄液鼻漏

－閉鎖時に 2 つの Sinus balloon を用いた頭蓋底再建例－.

第 31 回日本神経内視鏡学会（口演）

（東京，2024 年 11 月 7 日－8 日）

米岡有一郎、渋間啓、関泰弘、丹下明音、小原伸雅.

下垂体卒中に続発した切迫性浸透圧性脱髄症候群.

第 116 回新潟県内分泌代謝同好会（口演）

（新潟市，2024 年 12 月 7 日）

米岡有一郎.

下垂体卒中に続発した切迫性浸透圧性脱髄症候群.

第 35 回日本間脳下垂体腫瘍学会（口演）

（横浜市，2025 年 2 月 13 日－14 日）

米岡有一郎.

Wallenberg 症候群にコクサッキーウイルス感染が合併した一例.

第 50 回日本脳卒中学会学術集会（口演）

（大阪市，2025 年 3 月 6 日－8 日）

研究費(科学研究費)

洪間啓：代表 基盤研究費（C）24K12283 2024～2026 年度

ソマトスタチン受容体を標的とした GH 産生下垂体腺腫に対する近赤外線免疫療法の開発.

皮膚科

論文(総説)

藤原浩.

褥瘡の予防から治療まで.

皮膚 5(4): 415-421, 2024.

藤原浩.

褥瘡における剤形の使い分けは？

Visual Dermatology 23(11): 1055-1060, 2024.

著書・分担執筆など

藤原浩.

ハイドロコロイド.

ドレッシング材のすべて 改訂第2版, 96-101 頁, 学研出版, 2024.

藤原浩.

診療ガイドライン紹介 褥瘡ガイドライン(第3版)のポイント.

JDA Letter 2024年4月号(No.59), 12 頁, 日本皮膚科学会, 2024.

学会・研究会・講演会

藤原浩.

褥瘡の評価.

令和6年度在宅褥瘡セミナー(新潟県)(口演)

(新潟市, 2024年6月2日)

藤原浩、入澤亮吉、大塚正樹、加古智子、加持達弥、門野岳史、古賀文二、廣崎邦紀、野北陽子.

褥瘡治療には何が効く？

第123回日本皮膚科学会総会(口演)

(京都市, 2024年6月9日)

鈴木紗也佳、藤原浩、伊藤梢絵、長谷川剛、西山勉.

ダロルタミドによる多形紅斑型薬疹の1例.

第416回日本皮膚科学会新潟地方会(口演)

(新潟市, 2024年12月14日)

論文(原著)

Kawaguchi G, Ishida K, Nishiyama H, Ikeda Y, Hara N, Nishiyama T.

Rectal toxicity of 3-dimensional conformal radiation therapy following hydrogel spacer (Space OAR) injection for men with prostate cancer.

SAGE Open Med. 12: 20503121241287086., 2024.

論文(症例報告)

Ishida K, Ogose A, Kawaguchi G, Hasegawa G, Ikeda Y, Hara N, Nishiyama T.

Bladder Cancer Invading the Prostate and Penis and Multiple Bone Metastases Showing Significant Improvement after a Short-Term Pembrolizumab Therapy following Radiation and Gemcitabine and Cisplatin Therapy Leading to a Pathologically Complete Remission.

Case Rep Urol 2024: 7525757., 2024.

Ishida K, Hasegawa G, Takada T, Ogose A, Kawaguchi G, Ikeda Y, Nishiyama H, Hara N, Nishiyama T.

KL-6 Mucin as Serum Tumor Marker of Metastatic Renal Cancer: A Case Report.

Case Rep Urol 2024: 6648459, 2024.

Nishiyama H, Tominaga M, Ito K, Hasegawa G, Ishida K, Hara N, Nishiyama T.

Is it possible to diagnose mixed epithelial and stromal tumor of kidney prior to surgery? A case report.

SAGE Open Med Case Rep 12: 2050313X241308688., 2024.

Hiroki Nishiyama, Kozue Ito, Go Hasegawa, Yohei Ikeda, Kyohei Ishida, Noboru Hara, Tsutomu Nishiyama.

Laparoscopic partial cystectomy using stapling system for inflammatory myofibroblastic tumor of urinary bladder: A case report.

SAGE Open Med Case Rep 13: 2050313X251323788., 2025.

論文(総説)

本田耕平.

増加するアレルギー性鼻炎の現状と対応.

新潟県医師会報 894: 2-6, 2024.

学会・研究会・講演会

深津裕香、竹内美香、本田耕平.

甲状腺癌気管・上縦隔再発に対して 2 期的切除を行った 1 例.

第 98 回日耳鼻新潟県地方部会学術講演会 (口演)

(新潟市, 2024 年 12 月 4 日)

深津裕香、竹内美香、本田耕平、堀井新.

甲状腺癌気管・上縦隔再発に対して 2 期的切除を行った 1 例.

第 34 回日本頭頸部外科学会総会 (口演)

(東京, 2025 年 1 月 30 日)

本田耕平.

増加する上気道好酸球・アレルギー疾患とその対策.

見附市南蒲原郡医師会 2 月臨床鎖談会 (口演)

(見附市, 2025 年 2 月 27 日)

産婦人科

学会・研究会・講演会

加嶋克則.

婦人科腹腔鏡下手術の合併症と管理のポイント.

令和 6 年度第 1 回新潟県産婦人科医会研修会（口演）

（長岡市，2024 年 5 月 25 日）

加嶋克則.

HRD 検査を優先する遺伝学的意義.

第 2 回新潟県がんカンファレンス（口演）

（長岡市，2024 年 8 月 30 日）

沼尻彩水.

当院でのプロウペス使用状況.

第 120 回魚沼産婦人科医会（口演）

（南魚沼市，2024 年 9 月 27 日）

倉井伶.

止血に難渋した妊娠 24 週子宮内胎児死亡の一例.

第 120 回魚沼産婦人科医会（口演）

（南魚沼市，2024 年 9 月 27 日）

鈴木美奈.

発展途上国の産婦人科事情—国境なき医師団のミッションを通じて—.

第 120 回魚沼産婦人科医会（口演）

（南魚沼市，2024 年 9 月 27 日）

倉井伶、鈴木美奈、沼尻彩水、深津俊介、新井龍寿、吉田邦彦、加嶋克則.

妊娠 24 週死産後に止血に難渋した RPOC（Retained products of conception）の 1 例.

第 198 回新潟産科婦人科集談会（口演）

（新潟市，2024 年 10 月 12 日）

深津俊介.

当科で経験した回収式自己血輸血の 5 例.

第 120 回魚沼産婦人科医会（口演）

（南魚沼市，2025 年 3 月 14 日）

新井龍寿.

子癇が疑われた分娩時意識障害の 1 例.

第 120 回魚沼産婦人科医会（口演）

（南魚沼市，2025 年 3 月 14 日）

研究費(科学研究費)

三ツ間祐介：代表 若手研究 24K19455 2024～2026 年度

レミマゾラムの脊髄における作用機序の解明.

学会・研究会・講演会

山口征吾、米岡有一郎.

脳死下臓器提供 魚沼基幹病院での取り組み.

脳死下臓器提供に関する講演（秋田赤十字病院）（口演）

（秋田市，2025 年 2 月 3 日）

リハビリテーション科

論文(症例報告)

大西康史.

同名半盲を残した 2 名の脳卒中患者に対する ICF 脳卒中コアセット包括版を用いた生活評価.

総合リハビリテーション 52(9): 973-979, 2024.

学会・研究会・講演会

大西康史.

病院から地域へ リハビリテーション科医の活動の展開一.

第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (教育講演)

(東京, 2024 年 6 月 16 日)

大西康史.

生活期のリハビリテーション.

第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会 認定臨床医資格取得講習会 (オンデマンド形式)

(東京, 2024 年 6 月 16 日)

大西康史.

草の根の活動は仲間とともに ～魚沼プールリハクラブの取り組み.

NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 第 3 回全国の集い in 福岡 2024 (講演)

(福岡市, 2024 年 6 月 16 日)

大西康史.

リハビリ職に必要な画像の理解.

令和 6 年度新潟県立病院技師会総会 (講演)

(三条市, 2024 年 7 月 6 日)

大西康史.

生活の場での障害の見方.

生活期のリハビリテーション医療にかかわる医師のための研修会 (初級) (講演)

(東京, 2025 年 1 月 12 日)

論文(症例報告)

加納浩之、加藤祐介、小林正治、丸山智.

顎骨壊死をきたしたメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例.

新潟歯学会誌 54(2): 15-21, 2024.

学会・研究会・講演会

加藤祐介、加納浩之.

当科における周術期等口腔機能管理の臨床統計的検討.

第21回日本口腔ケア学会・学術大会 (ポスター)

(東京, 2024年4月28日)

加納浩之.

薬剤関連顎骨壊死に対する歯科対応の変遷と現状について.

魚沼歯科連携学術講演会 (口演)

(魚沼市, 2024年7月24日)

青柳友美、松原ちえみ、加納浩之、加藤祐介、井渕慎弥.

当院における骨吸収抑制薬剤開始前の口腔内精査依頼について.

第26回日本骨粗鬆症学会 (ポスター)

(金沢市, 2024年10月13日)

加納浩之、加藤祐介、小林正治、丸山智.

顎骨壊死をきたしたメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例.

令和6年度新潟歯学会第2回例会 (口演)

(新潟市, 2024年11月2日)

福井智子、加藤祐介、小林正治、丸山智、加納浩之.

インプラントの骨造成術後に発症した surgical ciliated cyst の1例.

令和6年度新潟歯学会第2回例会 (口演)

(新潟市, 2024年11月2日)

加藤祐介.

薬剤関連顎骨壊死を含む顎骨周囲の感染症に対する対応.

十日町中魚沼郡歯科医師会講演会 (口演)

(十日町市, 2024年12月7日)

学会・研究会・講演会

寺島健史

「地域全体でひとつの病院」を実現するための「うおぬま・米ねっと」.

第 62 回全国自治体病院学会（口演）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日）

著書・分担執筆など

目崎恵.

私を変えたあの一言.

INFECTIONCONTROL Vol33, 1 頁, メディカ出版, 2024

勝又尚美.

中心静脈カテーテルに関する Q&A.

INFECTIONCONTROL 2025 年春季増刊, 149-159 頁, メディカ出版, 2025

学会・研究会・講演会

目崎恵.

現場の感染対策の改善につなげる ICT ラウンド.

第 12 回日本感染管理ネットワーク学会学術集会 (シンポジウム)

(つくば市, 2024 年 5 月 31 日)

目崎恵.

手指衛生と皮膚消毒の理想と現実.

第 12 回日本感染管理ネットワーク学会学術集会 (イブニングセミナー)

(つくば市, 2024 年 5 月 31 日)

目崎恵.

一人ひとりが取り組む現場に活かす感染対策.

新潟県看護協会研修会 (講演)

(新潟市, 2024 年 6 月 20 日)

目崎恵、勝又尚美.

標準予防策.

魚沼圏域感染リンクナース養成研修会① (講義)

(南魚沼市, 2024 年 7 月 19 日)

目崎恵、勝又尚美、菅井洋子.

A 圏域における感染リンクナース育成事業の紹介.

第 39 回日本環境感染学会学術集会 (一般演題)

(京都市, 2024 年 7 月 27 日)

目崎恵.

標準予防策の復習、感染予防対策リーダーの役割について.

南魚沼地域振興局健康福祉環境部主催研修会／感染予防対策リーダーフォローアップ研修会 (講演)

(南魚沼市, 2024 年 8 月 29 日－30 日)

目崎恵、勝又尚美.

感染経路別予防策、環境衛生、感染対策リスクのある場所における感染対策.

魚沼圏域感染リンクナース養成研修会②（講義）

（南魚沼市，2024 年 9 月 9 日）

勝又尚美.

資器材の管理（洗浄・消毒・滅菌について）.

新潟県南魚沼保健所 新たな感染症危機管理訓練研修会（講義）

（南魚沼市，2024 年 10 月 16 日）

目崎恵、勝又尚美.

高齢者施設における感染予防対策リーダーの養成研修の実施とその後の実践活動状況.

第 62 回全国自治体病院学会（一般演題）

（新潟市，2024 年 11 月 1 日）

目崎恵、勝又尚美.

血管内留置カテーテル関連血流感染予防策、尿道留置カテーテル関連尿路感染予防策.

魚沼圏域感染リンクナース養成研修会③（講義）

（十日町市，2024 年 11 月 22 日）

勝又尚美.

魚沼圏域感染リンクナースの養成.

新潟県看護協会 つながる・ひろがる・たかめる～専門性の高い看護～研修会（講義）

（新潟市，2024 年 11 月 22 日）

目崎恵.

標準予防策とコロナウイルスとの向き合い方.

障がい者施設まきはたの里研修会（講演）

（南魚沼市，2024 年 12 月 10 日）

目崎恵.

感染予防対策リーダー支援者研修会「標準予防策の復習」.

南魚沼地域振興局健康福祉環境部主催研修会（講演）

（南魚沼市，2025 年 2 月 18 日）

精神医療支援科

学会・研究会・講演会

齋藤泉、廣田尚子、椿昌子、石田栄美子、恩田啓伍、渡部雄一郎。

中学3年時に統合失調症を発症し、多職種支援により復学と高校進学を果たした1例。

第62回全国自治体病院学会（ポスター）

（新潟市，2024年10月31日－11月1日）

薬剤部

学会・研究会・講演会

山岸宏和、薄田芳裕、渡部雄一郎。

発熱による中止後に緩徐な増量スケジュールでクロザピン再投与に成功した 1 例。

第 54 回日本神経精神薬理学会／第 34 回日本臨床精神神経薬理学会合同年年会（ポスター）

（東京，2024 年 5 月 24 日－26 日）

山岸宏和、中島楓、寺口敦、鈴木さくら、関口陽子、渡部雄一郎。

魚沼基幹病院における clozapine 増量スケジュールの現状。

日本病院薬剤師会関東ブロック第 54 回学術大会（ポスター）

（さいたま市，2024 年 8 月 10 日－11 日）

山岸宏和、中島楓、寺口敦、鈴木さくら、関口陽子、渡部雄一郎。

魚沼基幹病院における clozapine 増量スケジュールと有害事象の発生状況。

令和 6 年度新潟精神医学会（口述）

（新潟市，2024 年 10 月 12 日）

山岸宏和、須藤清香、寺口敦、関口陽子、渡部雄一郎。

魚沼基幹病院における炭酸リチウム血中濃度モニタリングの現状。

第 62 回全国自治体病院学会（ポスター）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日－11 月 1 日）

山岸宏和、須藤清香、寺口敦、関口陽子、渡部雄一郎。

魚沼基幹病院精神科におけるリチウム治療薬物モニタリングの実施状況。

第 27 回新潟総合病院精神医学研究会（口述）

（新潟市，2025 年 2 月 1 日）

放射線技術科

著書・分担執筆など

上村直史、棚邊哲史、桑原亮太、栗林俊輝、井開章博、阿部一樹、高頭浩正、川口弦。

前立腺がん全摘出後再発症例の放射線治療における SyncTraX FX4 の位置照合精度評価。

MEDICAL NOW 2025 No.96, 25-29 頁, 株式会社 島津製作所, 2025

学会・研究会・講演会

松本一則。

初めて 256 列 CT を循環器領域で使ってみたらこうなった -SnapShot Freeze2.0 だけじゃない Elite の実力-

GE HealthCare sponsored seminar (講演)

(Web, 2024 年 4 月 25 日)

松本一則、桐生雅也、若井亨、大平安里沙、若井千恵、諸橋拓也、廣田和也。

頭部 CT 撮影における寝台の厚みを考慮した AEC 値の基礎検討。

第 14 回東北放射線医療技術学術大会 (口頭発表)

(秋田市, 2024 年 10 月 5 日-6 日)

松本一則。

救急整形領域における質の高い MPR と 3D 画像を作成するための技術+α。

第 159 回 Tokyo CT Technology seminar (講演)

(Web, 2024 年 11 月 22 日)

松本一則。

機械的な診療放射線技師にならないための一歩。

第 2 回越後 StepUp セミナー (講演)

(新潟市, 2025 年 03 月 02 日)

桑原亮太。

東北および新潟地域における X 線線量校正に関するアンケート調査。

令和 6 年度 新潟県診療放射線技師会総会・学術大会 (口頭発表)

(新潟市, 2024 年 05 月 26 日)

桑原亮太。

計測部会活動報告「小照射野の線量測定」。

第 8 回放射線治療あすなろ会総合学術セミナー (口頭発表)

(仙台市, 2024 年 10 月 12 日)

若井亨。

"造影剤量最適化のスタンダードが変わった！ ～新装置導入がもたらしたインパクト～"

第 20 回 新潟 CT テクノロジー研究会 (口頭発表)

(新潟市, 2024 年 07 月 20 日)

井開章博、桑原亮太、栗林俊輝、上村直史、阿部一樹、高頭浩正、川口弦、

治療計画用 CT の被ばく線量に関する JASTRO アンケート調査と当院における放射線治療計画 CT の撮影線量の比較.

第 62 回全国自治体病院学会（ポスター）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日－11 月 1 日）

大平安里沙、

Hello, Volume Scan!

第 59 回新潟ぐるぐる臨床画像検討会（口頭発表）

（Web，2024 年 06 月 19 日）

大平安里沙、

スキャン方式の違いによる頭部単純画像の画質変化.

第 3 回新潟 GE HealthCare CT ユーザーミーティング（口頭発表）

（Web，2025 年 02 月 08 日）

臨床検査科

学会・研究会・講演会

柴田真由美.

篠川至賞を受賞して.

第 97 回新潟県臨床検査学会（講演）

（新潟市，2024 年 9 月 29 日）

加藤義揮、宮下裕美、今井瑠美、丸山奈穂、山田優、橋井美月、小泉莉央、柴田真由美、井口啓太.

プロセスマップを用いた教育の検討.

第 62 回全国自治体病院学会（ポスター）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日）

渋谷大輔、柴田真由美、阿部美香、大野仁子、丸山菜々子.

新潟県魚沼地域におけるがんゲノムプロファイリング検査の現状.

第 62 回全国自治体病院学会（ポスター）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日）

井口啓太.

ISO 15189 受審報告.

R6 年度 臨床検査総合部門管理運営分野研修会（講演）

（三条市，2024 年 12 月 1 日）

加藤義揮、宮下裕美、今井瑠美、丸山奈穂、山田優、橋井美月、小泉莉央、柴田真由美.

プロセスマップを用いた教育の検討.

第 12 回北日本支部医学検査学会（口述）

（仙台市，2024 年 12 月 15 日）

丸山菜々子、柴田真由美、阿部美香、渋谷大輔、大野仁子.

口腔擦過細胞診におけるオートスメア法と Cellprep 法の比較検討.

第 12 回北日本支部医学検査学会（口述）

（仙台市，2024 年 12 月 15 日）

渋谷大輔、柴田真由美、阿部美香、大野仁子、丸山菜々子.

新潟県魚沼地域におけるがんゲノムプロファイリング検査の現状.

第 12 回北日本支部医学検査学会（口述）

（仙台市，2024 年 12 月 15 日）

吉川康弘.

検査室外での検査、迷子にいませんか？－適切な POCT を行うために 亀田総合病院の経験から－.

令和 6 年度新潟県臨床検査技師会臨床検査総合部門 救急検査分野研修会（講演）

（Web，2025 年 1 月 4 日）

論文(原著)

Abe T, Yoshimura Y, Sato Y, Nagano F, Matsumoto A.

Sarcopenia as a Robust Predictor of Readmission within 6 Months among Individuals Experiencing Acute Stroke.
Annals of Geriatric Medicine and Research 28(3): 307-314, 2024.

篠崎信人、臼井直人、小野崎彰、阿部義史、岡村大介、小島将、佐藤陽一、白井信行、三上健太、長島瑞希、山田洋二、河西利昌、齊藤正和。

血液透析患者の透析施設への通院手段と身体活動量の関連：REPnet-HD study.
透析会誌 57(7): 1-8, 2024.

Masato Ogawa, Yoichi Sato, Fumihiko Nagano, Yoshihiro Yoshimura, Masafumi Kuzuya.

Mineral Supplementation in Patients with Frailty and Sarcopenia - A Systematic Review.
Geriatrics & Gerontology International 24(9): 850-858, 2024.

Imai R, Abe T, Yamaguchi S, Kimura S, Tsubaki A.

Relationship Between Regional Cerebral Oxygen Saturation and Percutaneous Oxygen Saturation at Initial Mobilisation in Patients with Acute Heart Failure.
Adv Exp Med Biol 1463: 185-189, 2024.

Imai R, Abe T, Iwata K, Yamaguchi S, Kitai T, Tsubaki A.

Regional cerebral oxygen saturation during initial mobilization of critically ill patients is associated with clinical outcomes: a prospective observational study.
Intensive Care Med Exp 13(1): 13, 2025.

Watanabe T, Kuwabara T, Matsumoto T, Yunoki K, Horinouchi T, Kirimoto H.

Modulation of ventral premotor and primary motor cortex interactions for accurate visuomotor force control.
Cortex 186: 51-60, 2025.

Yoichi Sato, Takafumi Abe, Yosuke Kimura, Shu Tanaka, Kazuki Okuda, Ayaki Shirahata, Kenta Yamamoto, Masafumi Nozoe.

Initial Calf Circumference Predicts Poor Disability Outcomes in Patients with Stroke.
The Journal of Nutrition, Health and Aging 29(3): 100483, 2025.

著書・分担執筆など

「生活期におけるリハ・栄養・口腔管理の 協働に関するケアガイドラインおよびマニュアルの整備に関する研究」班
(佐藤陽一：システマティックレビューチーム)

要介護高齢者において、減量は介助負担の軽減につながるか？

生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドライン，97-104 頁，医学書院，2024.

佐藤陽一、阿部貴文.

脳卒中の理学療法と MMD.

理学療法ジャーナル，1201-1206 頁，医学書院，2024.

学会・研究会・講演会

Ryota Imai, Atsuhiko Tsubaki, Takafumi Abe, Seigo Yamaguchi.

Patients admitted to the ICU who cannot be mobilized for the first time within 72 hours have low regional cerebral oxygen saturation.

ISOTT2024 (Poster)

(Socorro, 2024 年 6 月 9 日－14 日)

Atsuhiko Tsubaki, Hyuga Kojima, Hajime Tamiya, Keishi Hayao, Toshimi Sato, Ryota Imai, Soshi Samejima, Kentaro Iwata, and Shinichiro Morishita.

Thigh Cuff Release-Induced Repeated Acute Hypotension and Cerebral Oxygenation Recovery.

SPIE2025 (Poster)

(San Francisco, 2025 年 1 月 25 日－30 日)

丸山航輝、渡辺慶大、今井滉太.

内視鏡下試験的音声治療が有用であった声帯結節の 1 例.

第 11 回新潟県言語聴覚士会学術大会 (口演)

(新潟市, 2024 年 5 月 26 日)

石崎雅史.

地域在住高齢者における摂食嚥下の知識と意識の実態調査：嚥下・口腔・身体機能および栄養状態との関連性.

第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (ポスター)

(東京, 2024 年 6 月 13 日－16 日)

阿部貴文.

レジデント修了者のキャリアデザイン.

急性期 PTOTST 協議会設立記念講演会 (講演)

(東京, 2024 年 6 月 16 日)

今井遼太、阿部貴文、山口征吾、木村新平、若杉嵩幸、佐藤聡磨、椿淳裕.

急性期心不全患者における初回離床時の酸素化動態の重症度での比較.

第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (口述)

(神戸市, 2024 年 7 月 13 日－14 日)

井佐龍太郎、今井僚太、阿部貴文、山口征吾。

当院における救命救急センターの早期離床に対する意識調査。

第 10 回日本呼吸理学療法学会学術大会（口述）

（新潟市，2024 年 9 月 7 日－8 日）

佐藤陽一。

脳卒中患者のサルコペニアと超克すべき課題。

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会（口述）

（福岡市，2024 年 9 月 28 日－29 日）

今井遼太、阿部貴文、山口征吾、椿淳裕。

敗血症の ICU 患者における脳酸素化動態の早期離床可否での比較。

第 30 回医用近赤外線分光法研究会・第 28 回酸素ダイナミクス研究会 第 5 回合同研究会（口述）

（秋田市，2024 年 9 月 28 日－29 日）

阿部貴文、佐藤陽一。

急性期脳卒中患者の体組成評価が機能予後へ与える影響。

第 22 回日本神経理学療法学会学術大会（口述）

（福岡市，2024 年 9 月 29 日）

桑原貴之。

急性期の作業療法。

生涯教育基礎研修 新潟県作業療法士会 現職者選択研修（講師）

（Web，2024 年 10 月 20 日）

阿部貴文、佐藤陽一。

脳卒中患者の入院時の低栄養が発症 6 か月以内の予後へ与える影響。

第 30 回新潟県理学療法学会学術大会（口述）

（新潟市，2024 年 10 月 26 日）

丸山航輝。

脳卒中後 dysarthria 話者における発話明瞭度と音響学的指標に関する予備研究。

第 24 回新潟医療福祉学会学術集会（口演）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日）

石崎雅史、渡辺慶大。

高齢誤嚥性肺炎患者における炭酸水嚥下時の動態解析：予備的研究。

第 24 回新潟医療福祉学会学術集会（ポスター）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日）

桑原貴之、渡辺慶大、大口陽子。

免許センターとの心臓植込み型電気デバイスに関する情報の齟齬により自動車運転再開が遅れた症例。

第 62 回全国自治体病院学会（ポスター）

（新潟市，2024 年 10 月 31 日－11 月 1 日）

佐藤陽一、蒲澤佳子、伊藤由美、中村和利、田中純太、成田一衛.

農作業及び除雪と低握力の関連：魚沼コホート研究.

第 11 回日本サルコペニア・フレイル学会大会（ポスター）

（東京，2024 年 11 月 2 日－3 日）

長澤朋枝.

スタティックストレッチングにおける伸張時間と反復回数の違いが膝窩動脈の血行動態に与える即時効果.

第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会（口述）

（仙台市，2024 年 11 月 23 日－24 日）

佐藤陽一.

血液透析患者の症例紹介.

第 10 回領域別研修会（糖尿病理学療法）（口述）

（新潟市，2024 年 11 月 30 日）

佐藤陽一、阿部貴文、野添匡史.

急性期脳卒中患者における下腿周囲長と発症 12 か月後の機能予後との関連.

第 14 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会（口述）

（川崎市，2025 年 1 月 26 日）

今井遼太.

魚沼医療圏における心臓リハビリテーションの普及.

第 19 回新潟心臓リハビリテーション研究会（口述）

（新潟市，2025 年 2 月 1 日）

阿部貴文、佐藤陽一、野添匡史.

急性期脳卒中患者の possible sarcoepnia が 12 か月以内の複合アウトカムへ与える影響.

第 40 回日本栄養治療学会学術集会（口述）

（横浜市，2025 年 2 月 15 日）

今井遼太.

循環器疾患における薬剤知識.

第 12 回領域別研修会（心血管理学療法）（口述）

（新潟市，2025 年 2 月 16 日）

今井遼太.

重症患者における初回離床時の局所酸素飽和度と転帰 ―病態別調査と生存者の予後―.

NIRS を使用した臨床研究に関するミーティング（口述）

（Web，2025 年 2 月 16 日）

野添匡史、小川真人、井上達朗、谷拓朗、佐藤陽一、阿部貴文、木村鷹介、田中周、奥田和希、白幡恵輝、山本健太.

脳卒中発症前 disability 及び Frailty が主要心血管イベント発生に与える影響.

STROKE2025（口述）

（大阪市，2025 年 3 月 6 日－8 日）

今井遼太、椿淳裕、岩田健太郎、山口征吾.

ICU における急性心不全の離床における NIRS の利用.

第 52 回日本集中治療医学会学術集会（口述）

（福岡市，2025 年 3 月 14 日－16 日）

白井信行、臼井直人、岡村大介、佐藤陽一、小島将、三上健太、長島瑞希、島野優、篠崎信人、肥留川隼、作山 晃裕、山田洋二、齊藤正和。

血液透析患者における基本チェックリストで評価したフレイルと転倒の関係：多施設前向きコホート研究。

第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会（口述）

（横浜市，2025 年 3 月 15 日－16 日）

受賞

今井遼太：優秀賞

急性期心不全患者における初回離床時の酸素化動態の重症度での比較。

（第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，2024 年 7 月）

今井遼太：優秀論文賞

敗血症の ICU 患者における脳酸素化動態の早期離床可否での比較。

（第 30 回医用近赤外線分光法研究会，2024 年 9 月）

阿部貴文：奨励賞

急性期脳卒中患者の体組成評価が機能予後へ与える影響。

（第 22 回日本神経理学療法学会学術大会，2024 年 9 月）

阿部貴文：大会長賞

脳卒中患者の入院時の低栄養が発症 6 か月以内の予後へ与える影響。

（第 30 回新潟県理学療法学会学術大会，2024 年 10 月）

佐藤陽一：Best Young Investigator Award

急性期脳卒中患者における下腿周囲長と発症 12 か月後の機能予後との関連。

（第 14 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2025 年 1 月）

阿部貴文：第 3 回（2024 年）Progress in Rehabilitation Medicine Reviewer award

（日本リハビリテーション医学会，2025 年 3 月）

研究費(科学研究費)

佐藤陽一：代表 若手研究 22K17607 2022～2025 年度

臥位で評価可能な体組成評価は脳卒中の予後を予測できるか？

学会・研究会・講演会

山田竜、今井南、勝又稔、永野敦嗣、酒巻裕一、飯野則昭、

シャントエコー業務を始めて、

Niigata Blood Purification Conference2024（口演）

（南魚沼市，2024 年 12 月 1 日）

栄養管理科

著書・分担執筆など

本田恵理

栄養部会 魚沼基幹病院 地域をつなぎ、いのちをつなぐ ―「地域全体でひとつの病院」を実践―
～開院 9 年！部門長 2 年目！管理栄養士皆で一歩ずつ取り組みます！～
全国自治体病院協議会雑誌，88-92 頁，公益社団法人全国自治体病院協議会，2024

学会・研究会・講演会

本田恵理

心不全治療における多職種連携の効果.

第 28 回日本病態栄養学会（ポスター）

（京都市，2025 年 1 月 25 日）

笠原夏実

大腿骨近位部骨折患者に対する栄養管理科の取り組み.

大腿骨近位部骨折予防連携の会（講演）

（新潟市，2025 年 2 月 25 日）

学会・研究会・講演会

青柳友美、松原ちえみ、山本佳奈、角田聡美、井口千絵、関ひろみ、加藤祐介、井渕慎弥、加納浩之。

当科における骨吸収抑制薬剤開始前の口腔内精査依頼について。

第 26 回日本骨粗鬆症学会（ポスター）

（金沢市，2024 年 10 月 13 日）

看護部

学会・研究会・講演会

山口正嗣.

骨折リエゾンチームで行った動画を使用した患者・家族への啓発活動について.

第 26 回日本骨粗鬆症学会 (ポスター)

(金沢市, 2024 年 10 月 13 日)

山崎文雄、小山大介.

病棟スタッフ全員での学習会参画と教材作成 ー学びに楽しみのエッセンスをー.

第 31 回日本精神科看護専門学術集会 (ポスター)

(山口市, 2024 年 10 月 26 日)

大竹勇輝.

脳死患者の家族が抱くニーズと看護師が行う家族看護ケアの妥当性について.

第 62 回全国自治体病院学会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 11 月 1 日)

高橋初美.

自律した看護師を目指して ～看護方式 PNS から UKB 式デイケアナーシングへ～.

第 62 回全国自治体病院学会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 11 月 1 日)

成田恵.

A 病院の特色を反映させた NICU クリニカルラダーの導入.

第 62 回全国自治体病院学会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 11 月 1 日)

山崎文雄、小山大介.

身体的拘束最小化の促進を目指して.

第 62 回全国自治体病院学会 (ポスター)

(新潟市, 2024 年 11 月 1 日)

成田恵.

スタッフ一人ひとりのキャリアアップを目指した NICU クリニカルラダー導入の効果.

第 33 回日本新生児看護学会学術集会 (ポスター)

(松本市, 2024 年 11 月 9 日)

高松恵.

NICU 看護師に向けた新生児痛みのケアの学習支援と記録開始の効果.

第 33 回日本新生児看護学会学術集会 (ポスター)

(松本市, 2024 年 11 月 10 日)

嶋田美智子.

能登半島地震における災害医療活動について.

災害時における医療及び保健活動研修会 (Web 講演)

(新潟市 (Web), 2025 年 2 月 26 日)

魚沼基幹病院市民公開講座

(2025 年 2 月 21 日～3 月 20 日)

産婦人科	鈴木 美奈	「地域でできるからだにやさしい治療 ① 子宮・卵巣の病気」
消化器外科・一般外科（乳腺外科）		
	角南 栄二	「地域でできるからだにやさしい治療 ② 乳腺の病気」
消化器外科・一般外科（乳腺外科）		
	佐藤 洋	「地域でできるからだにやさしい治療 ③ 胃・腸の病気」
消化器内科	阿部 聡司	「地域でできるからだにやさしい治療 ④ 肝臓・胆道・膵臓の病気」
泌尿器科	西山 勉	「地域でできるからだにやさしい治療 ⑤ 腎臓・膀胱の病気」
泌尿器科	西山 勉	「地域でできるからだにやさしい治療 ⑥ 前立腺の病気」
脳神経外科	米岡 有一郎	「地域でできるからだにやさしい治療 ⑦ 脳の病気」
呼吸器外科	橋本 毅久	「地域でできるからだにやさしい治療 ⑧ 肺・気管支の病気」
耳鼻咽喉科	本田 耕平	「地域でできるからだにやさしい治療 ⑨ 耳・鼻・のどの病気」
整形外科	平野 徹	「地域でできるからだにやさしい治療 ⑩ 運動器（骨・関節・神経）の病気」

精神医療支援科

横山育海、椿昌子、齋藤泉、久保田治幸、藤井直行、櫻井和子、中澤昌子、赤塚なつみ、渡部雄一郎.

当事者の意思を尊重した精神科退院支援の重要性と困難さ：症例を通じて.

薬剤部

山岸宏和、中島楓、寺口敦、鈴木さくら、関口陽子、渡部雄一郎.

Clozapine 増量速度と副作用.

薬剤部

西由之、中島楓、高村誠、南場信人、五十嵐詠美、矢吹剛、今成拓、岩田真子、関口陽子、須田剛士.

魚沼基幹病院薬剤部におけるプレアボイド関連業務に関する報告.

臨床検査科

丸山菜々子、大野仁子、渋谷大輔、阿部美香、柴田真由美、伊藤梢絵、長谷川剛、加藤祐介、加納浩之.

口腔細胞診標本作成法の比較検討～化学物質の適切な取り扱いを踏まえて～.

臨床検査科

渋谷大輔、丸山菜々子、大野仁子、阿部美香、柴田真由美、伊藤梢絵、長谷川剛.

当院におけるがんゲノムプロファイリング (CGP) 検査の現状.

看護部

斉藤将太郎、滝島美紀子、酒井菜津子、仙木和真、南雲良美、大竹勇輝、小山大介、高橋初美、田村裕美、今井直美、笠井美香子、高橋みはる、須田剛士、高田俊範.

「看護師の特定行為研修」修了者の実践に関する報告.

看護部

中村龍星、川上文啓、田中亜弥、上村美加、齋藤里真、梅田真白、篠原未来、瀬下仁美、高田俊範.

急性期領域における栄養管理について ～早期経腸栄養プロトコル導入して～.

主な院内研修会 ※当院職員が講師を務めた分

＜院内感染対策研修会(感染管理委員会)＞

目崎恵

「5つの瞬間を極める」：手指衛生の重要性と実践.

(2024年7月5日)

勝又尚美、岩田真子

クロストリジオイデリス・ディフィシル感染症と対策について.

(2024年10月4日)

原昇、勝又尚美

尿路感染低減に向けたアプローチ.

(2024年2月4日)

＜感染リンクスタッフ研修会＞

目崎恵、勝又尚美

第1回 標準予防策の基本の「キ」 手指衛生の正しい方法.

第2回 手指衛生の5つの瞬間について正しく理解する.

第3回 手指衛生遵守率調査をやってみよう.

第4回 個人防護具の適正使用.

第5回 環境衛生と医療機器の適正管理.

(1年間通して)

＜経験年別手指衛生研修会＞

目崎恵、勝又尚美

これからリーダーシップを発揮する看護師経験4年目から6年目の方への手指衛生研修.

(2024年7月22日)

＜新人看護職員研修＞

鈴木さくら、小野塚宙大

新人看護師研修「薬の知識」①.

(2024年4月12日)

今成拓、須藤清香

新人看護師研修「インスリンについて」.

(2024年4月26日)

山岸宏和、中島楓

新人看護師研修「薬の知識」②.

(2024年5月10日)

関口陽子

新人看護職員研修「麻薬の種類と取扱い，新人看護師が知っておくべき麻薬の副作用」． (2024 年 6 月 6 日)

林美佳子、小野里悠佳

新人看護職員研修「輸血の基礎知識」． (2024 年 6 月 6 日)

<看護部オリエンテーション>

上村直史

放射線業務従事者のための教育訓練～安全に業務を行うために～． (2024 年 4 月 3 日)

國井正之

放射線学習会～放射線の安全性と防護を学ぶ～． (2024 年 4 月 5 日)

<緩和ケア研修会>

五十嵐詠美

令和 6 年度緩和ケア研修会． (2024 年 8 月 25 日)

<ドクターズクラーク研修>

関口陽子

薬に関する法律について． (2024 年 9 月 19 日)

<創傷リンクナース研修>

佐藤将史、阿部貴文

摩擦とずれについて、耐圧分散寝具の選択・使用方法． (2024 年 9 月 26 日)

鈴木さくら

創傷リンクナース研修． (2024 年 11 月 14 日)

<静脈注射研修>

鳴海大輔、春日大志

輸液ポンプ・シリンジポンプ研修． (2024 年 10 月 16 日，17 日)

山岸宏和

注射に関する基礎知識～取り扱う際の注意点～． (2024 年 12 月 13 日)

<新人看護研修>

目黒楓也、近藤孝覚、今井滉太、大口陽子

移乗動作、ポジショニング、廃用症候群について.

(2024 年 4 月 9 日)

<整形勉強会>

佐藤将史、阿部貴文

非荷重トランスファー.

(2024 年 7 月 4 日)

目黒楓也、皆川勝

ポジショニングについて.

(2024 年 11 月 14 日)

<早期離床プロトコル勉強会>

井佐龍太郎

早期離床プロトコル各ステップにおいてのリハビリ実践.

(2024 年 8 月 30 日)

<臨床検査科研修会>

佐藤陽一、小林仁美

トランスファー.

(2024 年 11 月 27 日)

<東 6 病棟口腔ケア学習会>

今井滉太

高齢患者の口腔ケアの必要性.

(2024 年 12 月 13 日)

<病棟学習会(東 8)>

山岸宏和

眠剤の特徴と取り扱い上の注意点について.

(2024 年 8 月 28 日)

<救急救命センター勉強会>

渡辺慶大、石崎雅史

ICU 領域における嚥下障害のメカニズム、ガイドライン紹介、スクリーニング検査の実施.

(2024 年 3 月 14 日) 補遺

<東 4 病棟勉強会>

酒巻裕一

透析バスキュラーアクセスの作成を考える.

(2023 年 11 月 27 日) 補遺

UKB Case Conference

鈴木 博

薬物療法が奏効した症候性動脈管開存の新生児例.

(2024 年 5 月 15 日)

中村 友春

大腸癌術前検査にて診断・治療を行った重複癌の一例.

(2024 年 5 月 15 日)

深津 祐香

難治性嚥下障害に対し誤嚥防止手術を施行した症例.

(2024 年 7 月 18 日)

福井 智子

インプラントの骨造成術後に発症した術後性上顎嚢胞と思われる 1 例.

(2024 年 7 月 18 日)

渡辺 智

心不全として紹介されたターミナル症例.

(2024 年 9 月 12 日)

鈴木 紗也佳

CD30 陽性リンパ球増殖性疾患.

(2024 年 9 月 12 日)

西山 紘貴

左尿管腫瘍に対する腹腔鏡下左腎尿管全摘術.

(2024 年 11 月 12 日)

丹下 明音

亜急性甲状腺炎の 2 症例.

(2024 年 11 月 12 日)

西谷 太志

異型リンパ球及び肝機能障害が遷延した伝染性単核球症の 1 例.

(2025 年 2 月 6 日)

橋本 毅久

左下葉肺癌に対する胸腔鏡下左 S9+10 区域切除術.

(2025 年 2 月 6 日)

研修医向け勉強会

山口 征吾

高エネルギー外傷の初期対応.

(2024 年 5 月 30 日)

大橋 和政

胸部 X 線勉強会.

(2024 年 6 月 5 日)

須田 剛士

HBV 再活性化の機序と対策.

(2024 年 6 月 11 日)

伊藤 竜

胸部 X 線勉強会.

(2024 年 6 月 19 日)

須田 剛士

腹部エコー・ハンズオンセミナー.

(2024 年 6 月 21 日)

飯野 則昭

腎機能評価.

(2024 年 6 月 26 日)

大橋 和政

胸部 X 線勉強会.

(2024 年 7 月 3 日)

伊藤 梢絵

病理部門との付き合い方.

(2024 年 7 月 11 日)

伊藤 竜

胸部 X 線勉強会.

(2024 年 7 月 17 日)

角南 栄二

当科における乳癌治療の実際.

(2024 年 7 月 25 日)

飯野 則昭

透析はどのような場合に必要か考えてみよう.

(2024 年 8 月 1 日)

生越 章

整形外科の画像診断の基本.

(2024 年 8 月 13 日)

神田 達郎	薬剤性肝障害の診断と重症化.	(2024 年 8 月 19 日)
伊藤 竜	胸部 X 線勉強会.	(2024 年 8 月 21 日)
本田 耕平	耳鼻咽喉科疾患の救急対応.	(2024 年 8 月 30 日)
阿部 聡司	CT によるイレウスの成因診断.	(2024 年 9 月 2 日)
井渕 慎弥	大腿骨近位部骨折について.	(2024 年 9 月 26 日)
飯野 則昭	低 Na 血症について.	(2024 年 10 月 11 日)
井渕 慎弥	救急見逃し症例検討会.	(2024 年 10 月 24 日)
荒生 祥尚	救急外来で良く出会う胆嚢炎、胆管炎について.	(2024 年 10 月 25 日)
酒巻 裕一	ステロイド薬とその副作用・対策.	(2024 年 11 月 8 日)
井渕 慎弥	ギプス・シーネ講習.	(2024 年 11 月 28 日)
酒巻 裕一	腎臓病・透析患者にすこし身近になろう.	(2025 年 3 月 4 日)

Annals of Uonuma Kikan Byoin

VOL.9 2024.4-2025.3

発行者 病院長 生越 章
教育センター長 高田 俊範

発 行 2025年6月

発行所 一般財団法人新潟県地域医療推進機構
魚沼基幹病院
〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐4132
TEL 025-777-3200
FAX 025-777-2811
<https://www.uonuma-kan-hospital.jp/>

編集担当 総務課総務係 米山 良英
※電子データが必要な場合は、編集担当までご連絡ください。



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院